



0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2



伊村兵衛 撮影

千葉縣九十九里濱

勅題「漁村」

慢性胃腸疾患

効果を確認された
肝臓より抽出の

V・B₂ 複合體

濃厚—良消化吸収性

結核・虚弱體質に！

理研
スタビ
錠

100錠 2150
 500錠 7000
 900錠 10000
 製造法人 理化学研究所製
 總代理店 株式会社 玉置商店 東京大阪

艦上へ迎へる二千六百一年



艦上の神棚には、正月のお飾りがちやんとしつらへられる

波に明け、波に暮れた
一年が夢のやうに過ぎた
沿岸封鎖の激しい艦上生
活にも紀元二千六百一年
の輝かしい新春が来る
波間を躍り上る燦然たる
初日を仰いでみると、
全艦員の心は何時か故國
に飛んで、宮城の老松に
映える壯麗な初日が神々
しく想ひ出される。薄と
した氣持ち、漲り上げる力、
今年こそわれ等の任務が
更に重くなるのだ。頑張
るぞ！



艦上に迎へる元旦の朝、深紅の太陽はしづかに
水平線を離れ、柱門に陽光が燦々と映える



元旦の朝、艦隊旗艦のメインマストには軍艦旗
と中將旗が潮風に翻動とひるがへる

おほらかに明けたこの朝、旗艦の甲板に全員集
会、軍樂隊の音が代吹奏とともに宮城を遙拜



烹炊室では腕に自慢の水兵さんが、正月料理に
腕を振る

お供へ餅の飾りつけに水兵さんは忙しい。初春
を呼ぶ潮風が餅棚をぬけてゆく



石小影撮

済



無限の戦道 若工の足

第一次欧州大戦の末期ヨーロッパの戦場に鐵鋼で身を包んだ怪物が現はれ、十字砲火をもともせず、あたかも無人の曠野を行く阿修羅の如く戦場を蹂躪した。

これが戦車の花々しい脚光を浴びた最初であつて、イギリス軍獨特の新鋭武器『戦車』は各國驚異の的となつた。それから二十数年現在の戦車は當時のものに比べて格段の進歩をとげ、武装と装甲を

以て攻防の兩威力を兼ね備へ、しかも道なき山野や水中もいとはずから體當り戦法を行ふ積極戦の花形となつた例を遠く求めるまでもなく、支那事變におけるわが戦車隊のめざましい活躍の中には西住戦車長のやうに武名を世界に轟かせ皇軍戦車隊の威力を遺憾なく發揮したことによつても戦車が如何に現代野戦の寵兒であるかわかる。

いまや世界各國が戦車隊訓練に狂奔してゐるとき、軍神西住のあとを繼ぐべきわが戦車隊はいづれの國よりも壯烈果敢な猛訓練を續けてゐる。

↑ 前進用意！ 指揮官車の旗幟一振、動く英姿は陸積と曠野を喰んで進む

積極戦の花形であればあるだけ、また團體が大きいだけ、戦車は敵の集中砲火を浴びる。敵前近く戦車隊は、先づ輕戦車を先頭に煙幕を張り、後続の第一線部隊を誘導する



堪へて忍んで

たむのた兵器

陸軍兵器廠

灼熱に焼く、どろくに溶けた鋼の奔流が火花を散らしつつ鑄型に流れ込む



★

事變第五年の正月を迎へ、世界新秩序の建設と平行して、東亞に新秩序を築くわが國の前途はいよいよ重大さを加へてきた。われわれはこの際お互ひの日常生活にそれを感ずるだけでなく、複雑な世界の情勢に目を向けて、この難局を敢然として切り抜ける覚悟を新たにしなければならぬ。戦争は一國を盛んにするか、一國を亡ぼすか、一國一民族最大の運命を決するものである。しかも近代の戦争は、武力戦ばかりではなく、これに呼應して國を擧げた産業力、経済力の統合、或は經濟封鎖戦や思想戦などが盛んに行はれる複雑多岐な國家總力戦となつてきた。そこでわれわれがこの總力戦に勝つためには、どうしても平時から戦時と同じやうに國家の状態を整備しておかなければならない。今次の歐洲戦争においてドイツが、かくも花々しい戦果を擧げ得たといふことは、今日あるを豫期して平時からちゃんと準備をさし、怠りなく國防國家を築いてをつたからである。

強度の國防國家を建設するためには平時においても國民は相當の辛苦に耐へる覚悟が必要である。ところが現在のわが國は一方に事變を遂行しながら、他方において國防國家を建設するといふやうに實に二重の重荷を背負つて進んでゐる。だからわれわれが相當の辛苦と闘つてゆかねばならないことは當然なことである。

今やわが國はかかる國防國家の建設大目標の下に、軍備の充實、政治の一元化、實業經濟の確立、資源の自給自足を圖るなど着々と強力な國家體制を整へつつあるが國家と國家と對するところ軍備の充實は一日もこれをゆるがせに出來ない状態に立ち至つてゐる。しかもわが國が企圖する東亞共榮圈の確立を保障するにたる軍備は、その量においても、質においても従來に比して劃期的なものが必要とするのである。

★

砲身の外面は、人の顔がうつる位まで綺麗に削られる。冷たい蒸気がかへつて砲身が焼けるまで打ちまくられる日の激しさを聯想させる

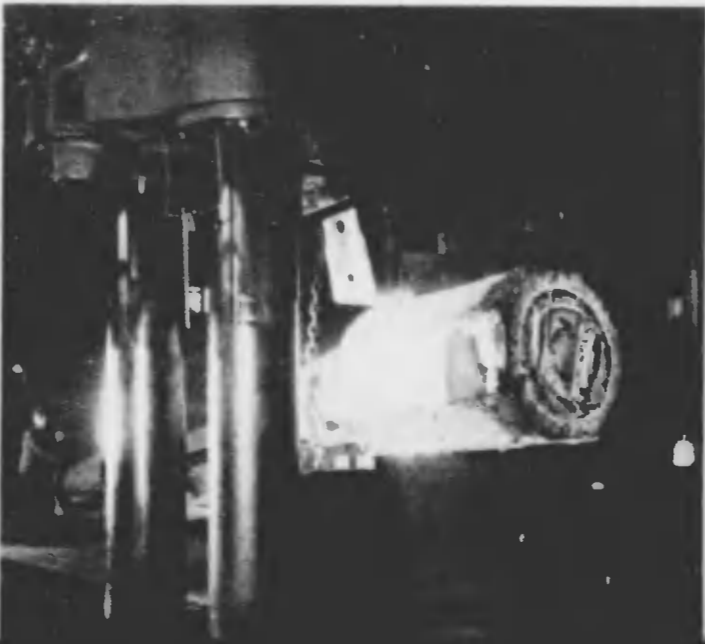


山と積まれた鉄塊が、融かされ、鍛たれ、磨かれて、やがて素晴らしい硬度と弾力を持った砲身に生まれ変わる

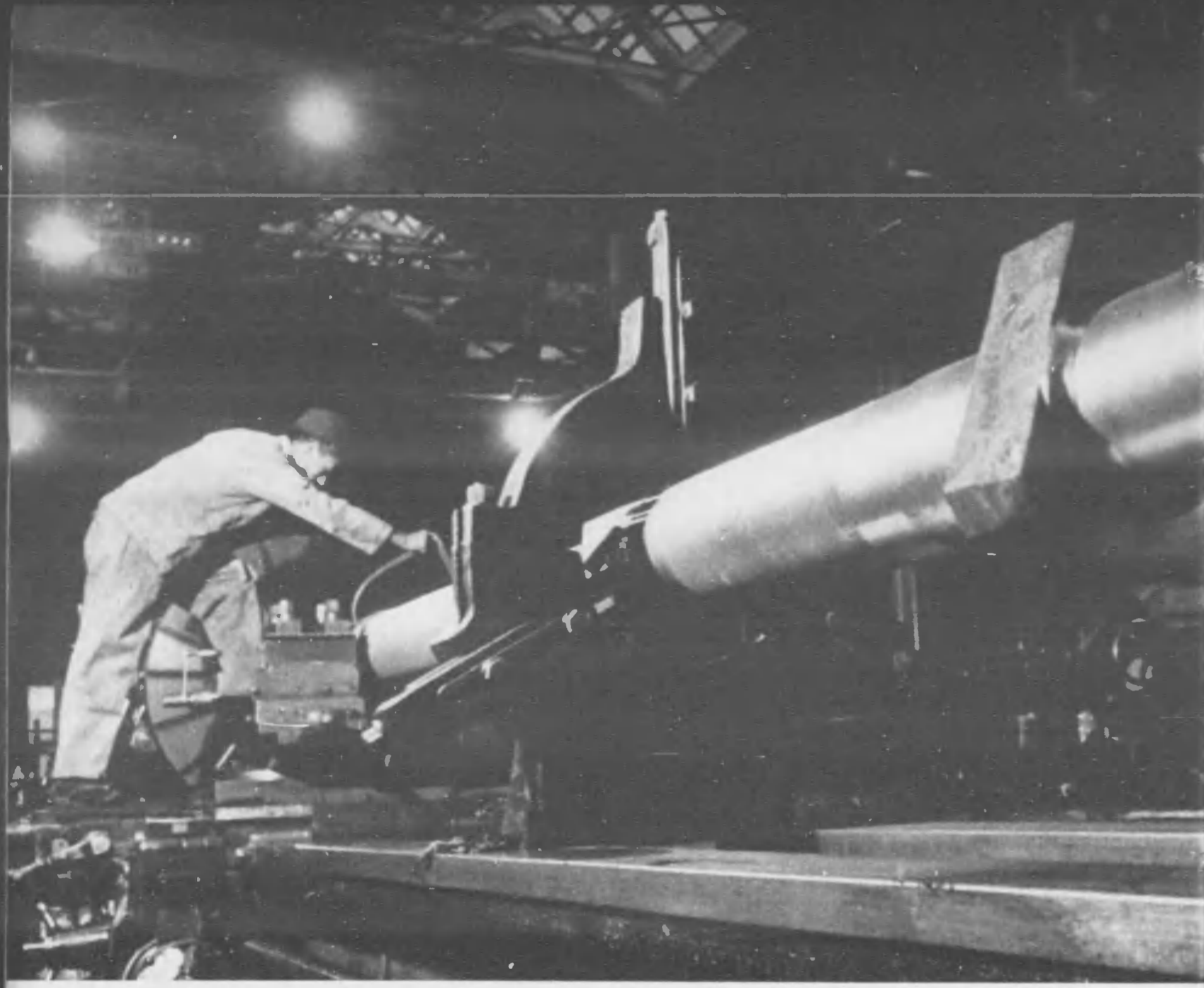


鑄型から引き出された砲身の子供、これから幾つかの過程を経て立派な砲身に育て上げられる

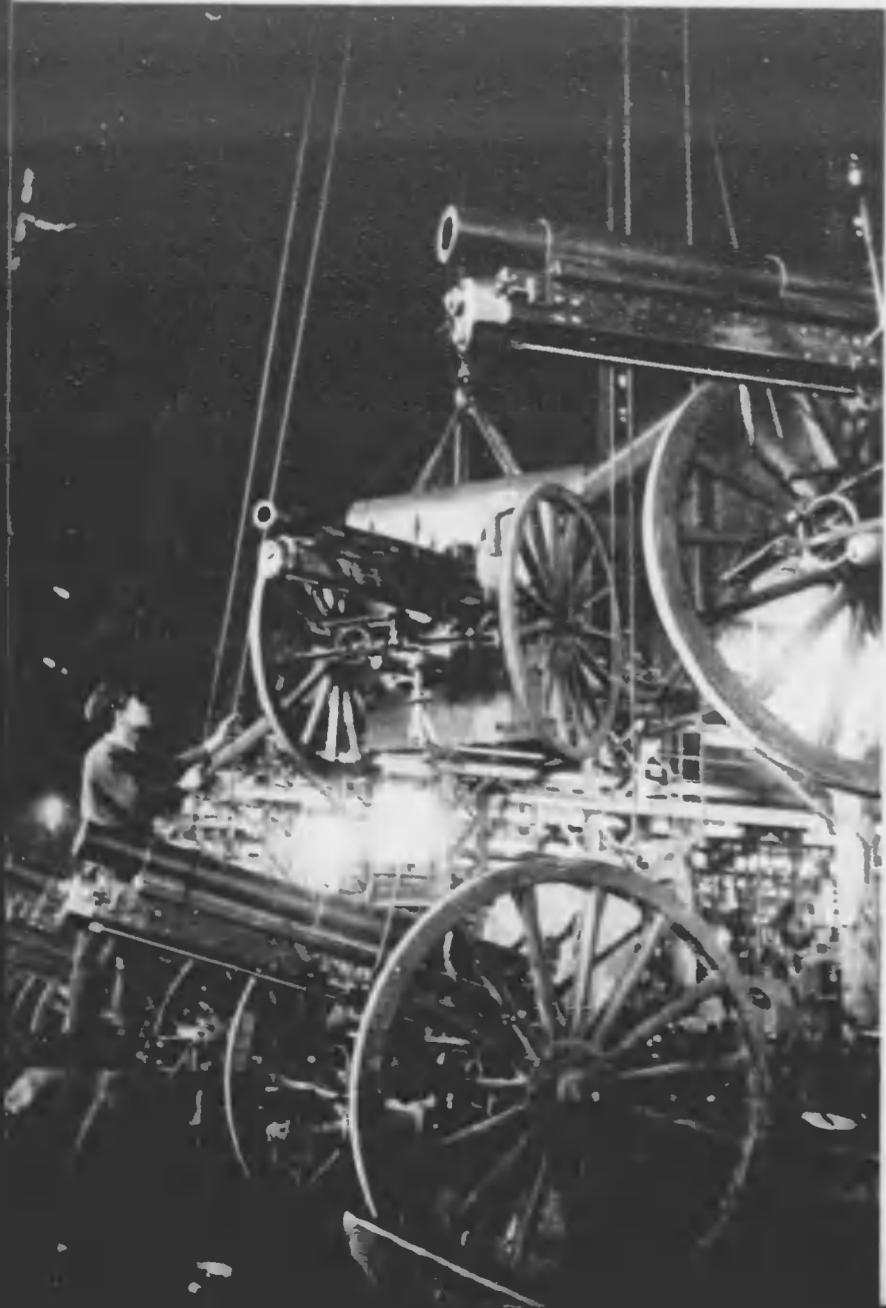
巨大な水壓プレスが千成鋼材に物凄い壓力をもつて押しこめる。火砲は砲身が生命だから、鋼質はききめて入念にされる



いよいよ砲身の出来上り、閉鎖機が取り付けられると立派に一人前、あとはゆつたりと砲架に腰を落ち着けるばかりだ



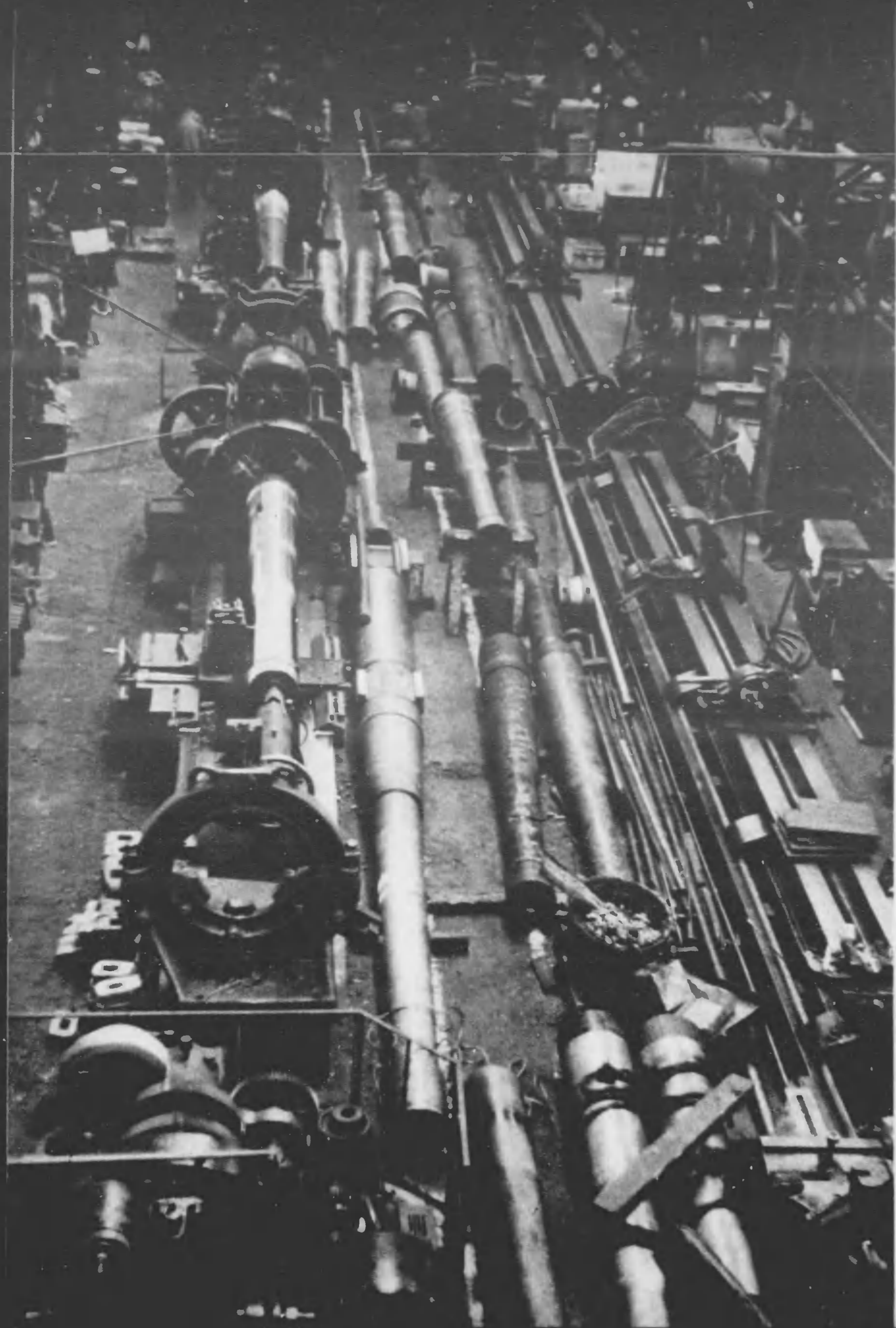
相當の速さで砲車が組立てられてゆく。豊然と並んである砲車の方強い美しさはみる者に激しい壓力と共に強い頼もしさを覺えさせる



★
堪へてゐるぞ
兵隊の兵器

砲身の組立、一寸した狂ひが砲の精度にすぐ響いてくる。職人の兵隊さんに怒ひを馳せて腕にも心にも一分の隙もない

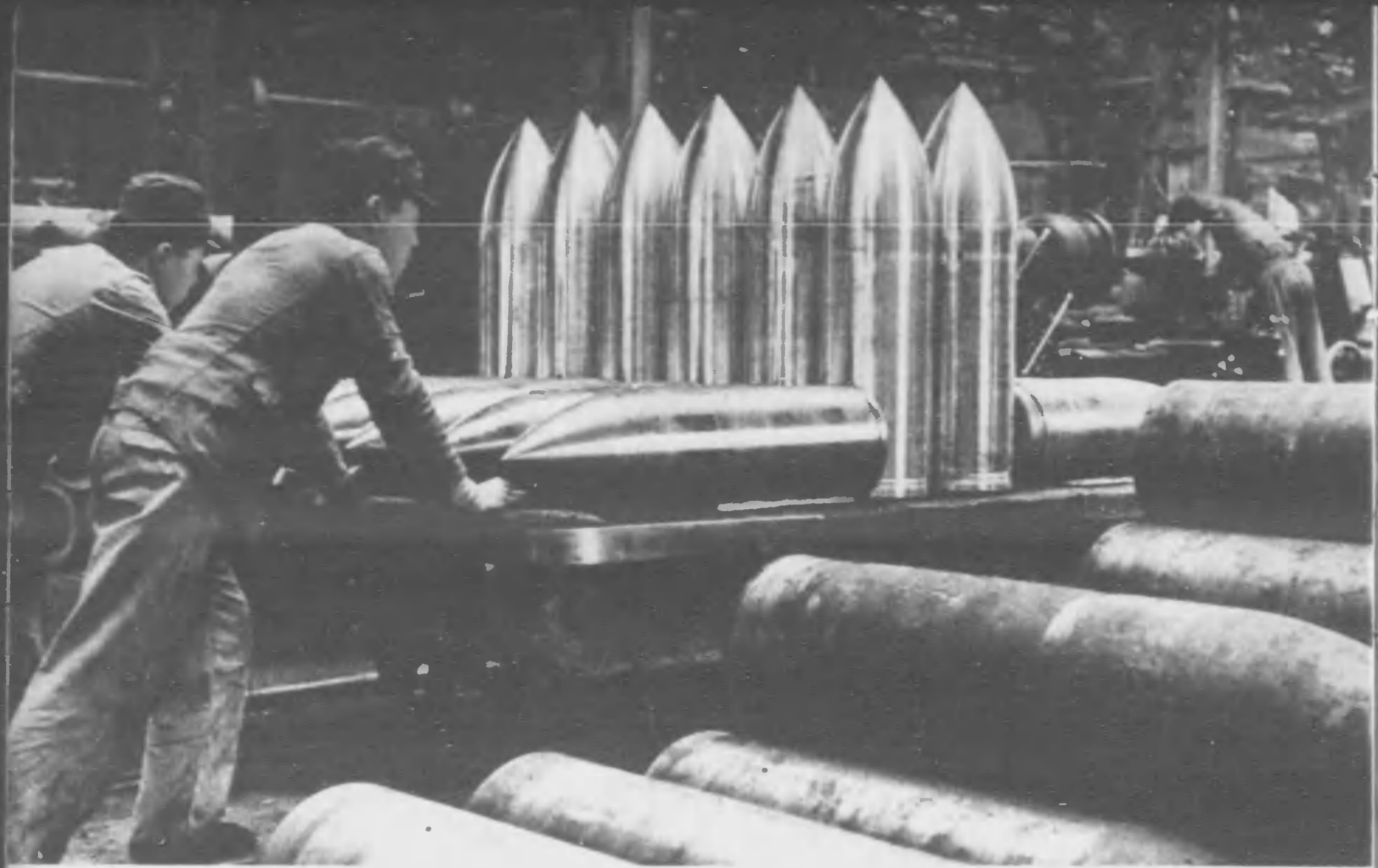
工員の保れた腕、眞鍮の皮によつて組立てられてゆく砲身



堪へて忍んで
産むのだ兵器



信管の一つ／＼に大和撫子の真心がこめてある。機械も火薬も、それを造る人、それを扱ふ人の心一つだ。平かて英亞の炬火となつて炸裂する日は何時だらう。運しい機身が晴れの日を待つて臥龍のかたち、機口に火を吐く日、東亞の天地に燃れこめてある機体が吹き拂はれるのだ。



薬莖はしつかり弾
體を抱いてあるが
いざといふ時は弾
體を物凄い力で押
し出す役目をする
薬莖には發射用火
薬が裝填される

多くの工程と厳密
な検査を経て榴弾
は次の仕上を待
つ。外面削りから
内面削りへ

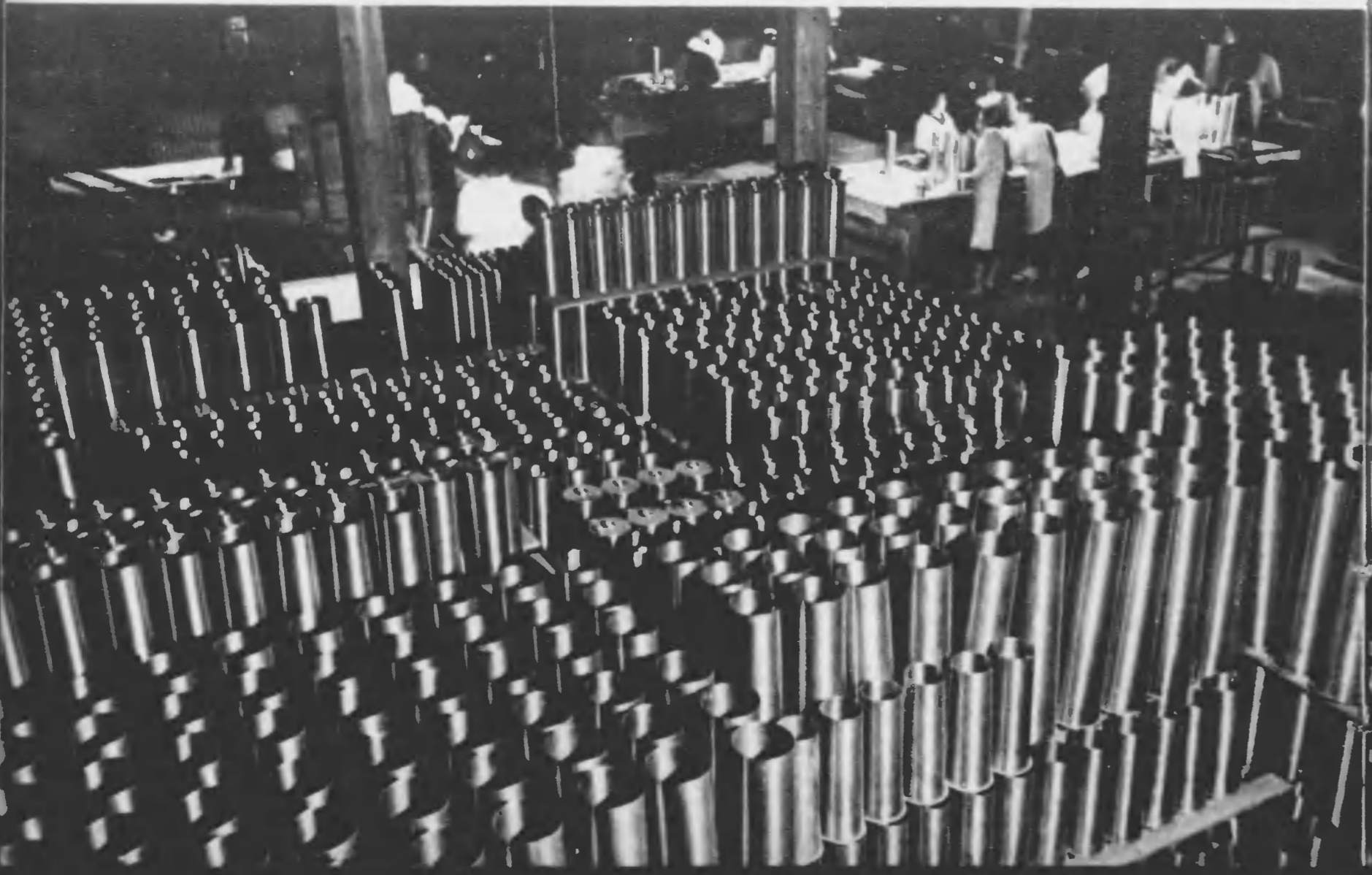


★
堪へてこい
て
大和魂の
大砲

この一つの砲
弾に大和魂がこも
って炸裂する時、
世界新秩序への道
が一步步切り開
かれる

早い速度で旋廻し
ながら徹甲弾の一
外面削り。流線型
の美しい姿が大き
な弾を畫いて着弾
を減つて飛ぶ日が
目に浮かぶ

仕上つた榴弾砲體
の塗装。榴弾は頭
部に信管をつけ、
炸薬を填實すれば
完成する。この弾
丸は目標に衝突
し、または空中任
意の高さで爆發
し、多くの破片に
炸裂して敵の戦
力を破壊する



こゝで紹介するのは東南部の興隆、南嶺附近のゴムの製作、民國政府が植林したものでゴムはパラゴムである。寫眞はゴムの種子



海は木のムゴ

南支の寶庫海南島が日華經濟提携の具體的ならしめとして既に各方面にわたつて開發の手が進められてゐることは既報の通りであるが、海南島の多量に重要資源のうち、一國文化のパロメーターとさへいはれるゴムが將來殊に有望なことは日滿支の自給自足經濟確立のために大きな役割を持つてゐる。

海南島のうち、ゴムの栽培に最も適してゐると思はれるのは東南部の太平洋に面した地域である。まづ氣候からいつてゴム栽培に必要な條件は風が余り強くないこと、相當の湿度と温氣があること、四季を通じて余り氣温の變化が激しくないこと、以上の三つであるが、東南部の地域はこの三つの條件をすべて備へてゐる。

海南島の治安が皇軍の手によつて確保された當初の調査によれば、海南島のゴムには疑問符がおされ、或ひは不適かもしれないといふことに傾いてゐた。なぜかといふとその當時の調査は西北部の那大附近のゴム林を主としたものでこの地方は四季の氣温に相當の開きがあるので、樹に年輪ができて採液量が可成減るといふ豫想に基

たいふを芽に島南

くものである。その後調査が東南部に進み、この地方の單位面積におけるゴムの採液量がマレー半島のものより變りがないほど豊富であることが判つて海南島のゴムに太鼓判が押されるに至つた。この地方は常に霧がかかつてゐて雨も多し、熱帯植物の成長には實に適してゐる。例へば暖水から萬年を結ぶ地域の山地は殆んど鬱蒼たる密林である。従つてゴムの植林には絶好で、試作されてゐる苗の殆んど全部が植付けに成功してゐる。

十數年前から中華民國政府がゴムの植林を行つた形跡があり、十二年生位の既に採液期に入つてゐるものが相當數に上つてゐる。この採液期に入つてゐるものについてみると、まだ若干委を消してゐる採液の熟練工が全部戻つてくれれば企業としても立派に採算がとれるといはれる。更にマレー半島の採液熟練工の勞賃に比べて海南島の熟練工の勞賃が極めてやすい點からいつても、植林はあくれてゐるがマレー半島方面のゴム企業に充分喰ひ入る余地はあるといはれる。

ともかくこれまでその全額を第三國からの輸入にまつてゐたゴムをその幾割でも國プロック内において確保できる見込のたつたことは力強い限りである。



凝固盤の乳液に三十倍に薄められた水酸液を加へて攪亂し、一時間程静置すると酸でゴムと水が分離し、ゴムは豆腐のやうに固まる。これを凝固盤から抜きとり、餅をのばすやうに手で伸ばす

ゴムはまづ苗床をつくり、そこに種子をまく。苗床は水分の發散を防ぐため藁で掩はれてゐる



植付後三ヶ年を経過するとゴムは熱帯植物らしく上へへのびてこの位の大きさに達する



大から次と切取つて、全部切り終つた頃最初の木から乳液をベケツに集める。乳液は午前九時頃まで出るが氣温が高くなると出なくなりかたまつてしまふ。良く出る木は一本で百二十グラム位出る



手で伸ばしたゴムを平面ローラーに三、四回かけて伸ばしたのち、形付ローラーにかけて仕上げる。これを一、二回水洗ひすると白色の形付けシートゴムが出来る



種子をまいて一ヶ月すると、大體この位の大きさに成長する。これを苗床から移して植付ける



桃、栗三年柿八年といふが、ゴムも十二、三年たつと立派に採液期に入つてゐる。地上二メートル位ところの樹皮(乳間組織)を切り取り乳液をコップにらける。採液は午前七時頃始められ一人で三百本位受け持つ

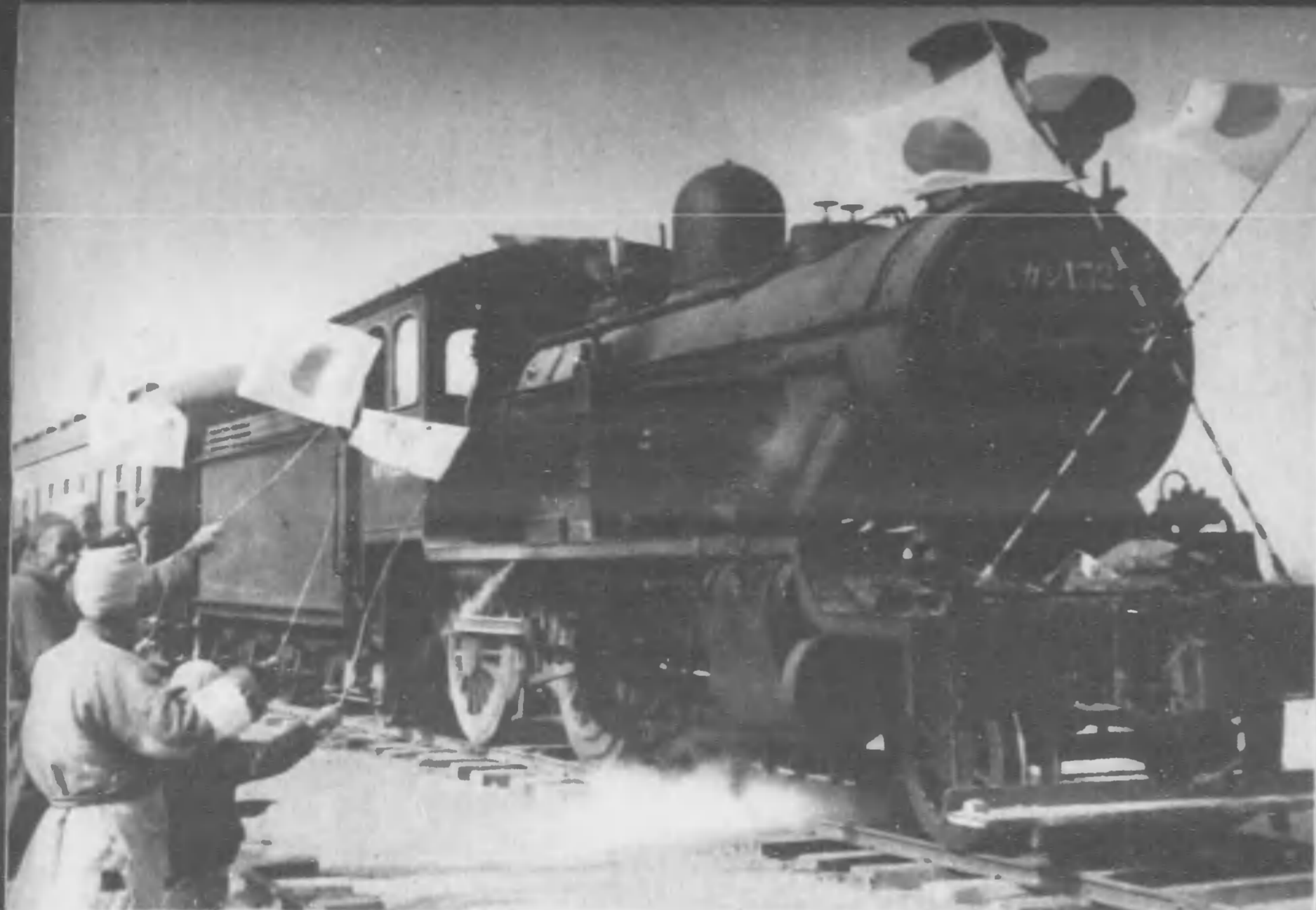


採取された乳液は金網でゴミをとり、水によつて乳液の濃度がことなるから、少量の水を入れて濃度を平均する。濃度の平均された乳液一六〇ccに水一六〇ccを加へて稀薄にして凝固盤に移す



これを乾燥乾燥室に並べてかけ一週間乾燥すると白色のシートゴムが原料ゴムといはれるアメ色のシートゴムに出来る。このゴムは長さ七十九センチ、巾四十七センチ、厚み約六ミリ、重さ約七百五十グラムある





敷設工事が着手されるや、住民の多くは皇軍軍需の下に早速愛護村をつくり、自ら治安維持にあたりて建設に協力した。物めづらしく婦女列車を迎へる民衆はまたこの日から自分達に與へられた大きな福祉に心から感謝を捧げてゐる。



婦女列車は新しく開かれたレールの上を小気味よく前進する。運轉室に立つ高崎部隊の勇士には苦しかった五ヶ月が今は限りのない懐きをもつて懐き出され、轟々たる響きにまぎつて、建設戦に放った戦友の歡呼が聞えるやうだ。



この華北平原の真只中を東西に貫く徳石線は昨年六月中旬北支派遣軍によつて着工され、華北交通會社及び内地鐵道關係派遣委員會などの協力によつて工事を急いだが、ついに昨年十一月十五日竣工、豫定を短縮すること正に一ヶ月半、着工以來五ヶ月をもつて開通を見たのである。しかし全線長約二百キロの敷設工事には、河北省中部のいはゆる冀中地區一帯に隣居する第八路軍の執拗な妨害をはじめ言語に絶した困難を克服しなければならなかつた。その上加藤廉大尉以下〇〇名の將兵は建設の尊い人柱として軌道の枕木を血で架めてゐる。

石門、德縣を結ぶ線は京漢津浦兩線を結ぶ最短距離で、その沿線には藁城、晉縣、東鹿、衡水、龍華鎮などの豊饒な華北平野の重要地が横たはつてゐる。この鐵道の開設により北支中心地區の農産である棉花、穀類の出廻りが促進されることは勿論である。

支那事變勃發以來北支建設の重要支線として既に五つの鐵道が完成され、治安維持にまた文化の發展に朗かな興亞の建設講を奏でてゐる。第一は昭和十二年末竣工した北京古北口間の京古線、第二は同蒲線北段の寧武線、第三は新郷—開封間の新開線、第四は昨年十月開通した山西省東關鎮—潞安間の東潞線、それについてこゝに紹介する京漢線石門（石家莊）と津浦線德縣の兩線を結ぶ徳石線である。



北支軍最高指揮官代理菅原參謀長の祝詞

撮影 北支派遣軍報道部

この重要な京漢、津浦の連絡は民國五年以來幾度か立案提唱されたがその都度失敗に移つてゐた。この度この懸案の鐵道が日華共存提携の具體的な現れとして、日華軍官民の協力一致の下についに開通したのは、まことに意義深いものがある。

開通式の午前七時、歴史的な婦女列車は民衆の歡呼に送られて京漢線石門驛を發車、午後一時時々の開通式場賈家石に到着した。開通式は十一月十五日徳石線沿線のほゞ中間にある河北省の一寒村賈家石で北支軍最高指揮官代理菅原參謀長はじめ服部、高崎（祐）高崎（季）各部隊長その他關係者多數並列の下に盛大に行れた。

沿線の各驛には防壁が築かれて、蠢動する殘匪に備へてある。しかし建設の昔高らかに轟進する列車の安全は沿路愛護村の支那民衆が更にあつたのもしくみ守つてゐられる。

今夜は慰問袋を作せう

「なんでも、こりや、
「本日は日軍を慰問する子供
のからに響くとんがら
してふつとよくらま
みよ子の叔、大きく
なつたらな、まぶた
の裏にふと故郷の庭に遊
ぶ愛児のおもかげが寫つ
て、南海の蒼空に海軍
旗が翻へる

井上トシ子さま
イモンブクローアガクウ
オチガミハナドモく
ヨミマシタ。カハイイオ
ニンギョハハイトイサン
ノチワウオクトコロ
ニカサウチ、ヨルネルト
キニバンワシテモラヒマ
ス
トシコチヤンモゲンキニ
ペンキヤウシテダグサイ
ヘイイサンモゲンキダ
ス。マダオチガミワダグ
サイ。サヨナラ
橋爪一水兵ヨリ



遠くで銃聲がしてゐる。
行軍の小休止を暇友と
たまりで雑談してゐると
自分等を追ひつゝ前線
に行く給水車から慰問袋
を投げて呉れた。一袋
到来ときたな
これを開ける気持は實に
何ともいへないものだ
心のどつかで愛心がこ
ぞりしてゐる



事變第五年を迎ふ

事變下に四度目のお正月を迎へ、いよいよ事變第五年に入りました。ふりかへつて見ますと、支那事變勃發以來既に三年半、ずぶぶ長い間よく戦つてきたものです。昨年の秋、日華基本條約が締結されて、日華兩國の新關係もはつきりと定まり、聖戰の目的である東亞新秩序の建設は歩一歩と着実に、力強く進んでゐます。

しかし、支那事變ももうこれで峠を越したのだらう、事變第五年は少しづつゝ楽になるだらう、といふやうな感をもいだく人があつたとしたら大變です。どうして支那事變が第五年といふやうな長期戦となつたか、支那事變の眞の原因が何にあるかを考へて見ると、支那事變は一段落どころか、事變第五年こそ事變の成否のかけこむ重大な年だといふことができ

ます。支那事變の眞の原因は何か、なぜこんな長期戦になつたか、といふことは、こゝとあらためて申すまでもないでせうが、要するに支那事變が日本と支那との戦ではなく、東亞を支配してきた舊秩序に

對する目覺めた東亞の戦だからです。日本と支那との戦争であれば話は簡單ですが、舊秩序を維持しようとするいはゆる授將第三國の授將行爲があるために戦闘も終らないのです。事變も東亞新秩序の建設といふ一面戦争、一面建設といふ形をとつてゐます。

その新秩序の建設といふことが、歐洲戦争の勃發によつて世界的規模のものとなつてきたので、支那事變の處理も歐洲新秩序の建設と脱み合せての世界的な規模のものとなつてきました。

歐洲における新秩序の建設も昔々と進んでゐますが、何しろこれまでの舊秩序を根本的に破壊して、全世界に新秩序をうちたてようといふ仕事ですから、五年、十年はあつても、場合によつては五十年、百年といふ長期戦も覚悟してかゝらねばなりません。

日獨伊三國同盟條約の締結によつて、日本の進むべき路は世界新秩序の建設へとつくり決まつたわけですから、この世界の

りません。大政翼賛運動、いはゆる新體制運動が起つたのもこのためだといへませう。大政翼賛會も昨年未臨時中央協力會議を開き、いよいよ具體的運動の發足をしました。

事變第五年、それは世界新秩序建設へ向つていよいよ本格的に乗りだすべき年です。世界的な大轉換期に當つて、昨年われわれは紀元二千六百年を迎へましたが、この意義ある年に向つづけられた世界新秩序の建設へ向つて、いよいよ本年こそ、具體的に發足すべき年です。紀元二千六百年代の日本國民に與へられた課題の解決に着手するのは今年です。

かう考へてきますと、事變第五年は戦争の一段落どころか、今年こそほんたうに一億一心となつて世界新秩序の建設、高度國防國家の建設に邁進せねばならぬ重大な年だといふことがわかります。

總動員態勢もますます強化されねばなりません。國家總動員法は事變以來大第に強化されてきましたが、昨年末、十二月十四日の總動員會議でも貿易統制、農地の價格統制、農地等の管理、森林原野の價格統制、生活必需物資の統制、新聞紙等の掲載制限の六勅令案要綱が可決されました。

貿易統制の勅令は、現在の緊迫してゐる内外の經濟情勢に對する貿易統制を確立しようとするもので、必要と認められた場合には商工大臣の命令で民間の業者

に強制的に輸出または輸入をさせ、或ひは輸出入を制限、禁止することができるようになります。耕作地や森林、原野の價格にも統制が加へられることになり、これらの土地の價格騰貴が抑制されます。また耕作地を流して宅地や工場敷地など、耕作以外の目的に使用しようとする場合は地方長官の許しを受けなくてはならなくなり、農作物の種類を指定されたり、休閒地の耕作を命ぜられたりします。生活必需物資については、主務大臣が生産から消費まで全面的に命令をなすることとなり、生活必需物資の公平な、眞に必要なものへの配給が確保されます。新聞雜誌等の記事についても總動員法第二十條が發動されて、記事掲載を制限または禁止されます。

昨秋十月に強化された總動員態勢は、これによつて更に一層強化されたわけですから、事變第五年にはもつと強化されるでせう。

高度國防國家の確立、世界新秩序の確立、といへば何だか抽象的で漠然としてゐますが、それはわれわれ國民の一人一人に課せられた問題です。そしてわれわれ國民としてとるべき路は要するに大政翼賛の巨道實踐、われわれの生活の中に職分奉公の誠をいたすことに盡きます。今年こそほんたうに一億一心となつてつとめませう、新體制の確立に――



さあ、実践の年だ 進む大政翼賛會

昨年十月十二日生誕をあげた大政翼賛會も、二歳になった。生みの情みはいろいろあつたが、もう一人歩きのできる年だ。億同胞を父母とし兄弟として健かに育つてゐる。まだ足つきが充分しつかりしてゐるとはいへないかも知れないが、ともかくにも目的に向つて歩く者がでてきた。歩き初めだ。國家としてこんなめでたいことはない。億同胞として手を貸し、足を貸し、温かい心で接して欲しい。そして段々しつかりした足どりで、黨の中を、往來を、闊歩するやうに力を貸してもらひたいものだ。

大政翼賛會に附置された中央協力會議が昨年十二月十六日から三日間臨時に開催された。これはいほゆる上意下達、下情上達を主とした大政翼賛運動の大きな國民への呼びかけの一つであつて、目的に向つて自分の考へから歩き出した第一歩である。會議は四角張らない黨會議議の精神で進んできた會議は充分盡して、始終和やかに進められた。今その中から大政翼賛會がどんなことをしようかと考へ、またどんな方向に向つて進んでゆかうとしてゐるかを發表されたところに依つて拾つてみよう。

運的實現の理想たる國體を信仰し、歴史認識を奉養し、職分奉公の誠をいたし、ひたすら性神の大道を顯揚す

一、大東亜共榮圏の建設に協力す。即ち、大東亜の共榮體制を完備し、その興隆を圖るとともに、進んで世界新秩序の確立に努力す

二、經濟政治體制の建設に協力す。即ち、經濟文化、生活を翼賛精神に統一し、強力なる総合的翼賛政治體制の確立に努力す

三、翼賛政治體制の建設に協力す。即ち、創意的能力と科學を最高度に發揮し、翼賛精神に基く綜合的計畫經濟を確立し、以て生産の飛躍的増進を圖り、大東亜における自給自足經濟の完成に努力す

四、文化新體制の建設に協力す。即ち、國體精神に基き、高貴・明朗にして科學性ある新日本文化を育成し、内は民族精神を振起し、外は大東亜文化の昂揚に努力す

五、生活新體制の建設に協力す。即ち、翼賛理念に基き、新時代を推進する理想と氣魄を養ひ、忠孝一本、國民一一家族の成員として、國家理想に結集すべき科學性ある生活新體制の樹立に努力す

以上であつて大政翼賛會は進むべきが、この中味を簡單にいひ換へてみれば次のやうになる

(一) 神武天皇の御創業の精神に遵ひ、全國民一丸となつて凡てを國家の中心たる皇室に統一し奉り、一死奉公の決意を固め天壤と共に窮まりなき皇運奉養に挺身

(二) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

(三) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

(四) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

(五) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

すべきである

(一) 現存が國の最大命たる東亞に新秩序を建設し、進んで世界新秩序建設に協力するために、國民の全能力を擧げてつくり出される高度國防國家體制を建設し、大東亜諸國の共に榮ゆる組織を作らねばならぬ

(二) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

(三) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

(四) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

(五) 國民一丸となつて、此の國の最大の命運を担ふべき

先づ大政翼賛會の實現要綱が決定した。これは大政翼賛會が大政翼賛運動を進めて行く上の基礎となるもので、この線に沿つて色々なことをやつてゆくのである

が、もうと國民に買つてもらひたい、といふやうなことをやる

(四) 企業局には經濟組織、文化、制度の四部があつて、經濟組織部は會社、工場、商店組織をかへ、またやつてゆき方をかへる。文化部は學問や文學や映画などを金を儲けるため面白いためにやるばかりでなく、國のためになるやうに考へ直す。制度部はお役所やその他の制度をもつと良いものにするやうに研究する

(五) 議會局では、國民みんなが政治に関係

してゐるのだ、といふ自覺を強めて政治家だけの政治でないやうにする

(六) 協力會議(中央、地方)は前にも書いたが、政府のやうとうとしてゐることを國民に十分知らせて心から協力してもらふ。また國民の暮らしや希望などを政府に打ちつけ、できるだけ實行してもらふ、といふことをする

大體以上が大政翼賛會の各局の仕事の区別で、今年から實際にやつてゆかうとしてゐることなどが判明したと思はれるが、前にも述べたやうに大政翼賛運動は國民全部の運動であつ

て、國民の心からなる協力がなければならぬだけでどうにもならないのです。支那事態を解決し東亞に新しい秩序を築いて、日本を中心にして東亞の諸國がみんな共に榮え、進んでは世界の新らしい秩序を打ち立てるためには、是非とも高度國防國家をつくらなければならぬ。それは近衛總裁のいはれた「上御一人に對し奉り、日々それの立場に於て奉公の誠を致す」といふことをしつかり胸に大々かき込んで、二千六百年から毎日實踐してゆく以外にはないのである

(大政翼賛會)

翼賛一家和家

大和賛平 (四十八歳)
賛平さんは東京の銀行員。妻は主婦。三人の子どもがある。よく働く。よく働く。よく働く。

大和武士 (七十七歳)
武士さんは大和の長老。よく働く。よく働く。よく働く。

大和賛三郎 (二十歳)
賛三郎さんは大和の若者。よく働く。よく働く。よく働く。

大和さくら (二十一歳)
さくらさんは大和の娘。よく働く。よく働く。よく働く。

大和みさ子 (十七歳)
みさ子さんは大和の娘。よく働く。よく働く。よく働く。

大和みさ子 (十五歳)
みさ子さんは大和の娘。よく働く。よく働く。よく働く。

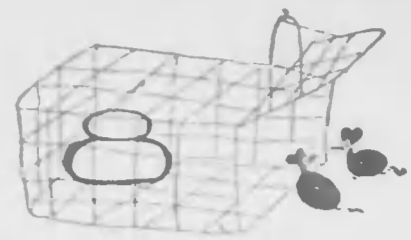
大和ふぢ (七十歳)
ふぢさんは大和の父。よく働く。よく働く。よく働く。

大和さくら (二十一歳)
さくらさんは大和の娘。よく働く。よく働く。よく働く。

大和みさ子 (十七歳)
みさ子さんは大和の娘。よく働く。よく働く。よく働く。

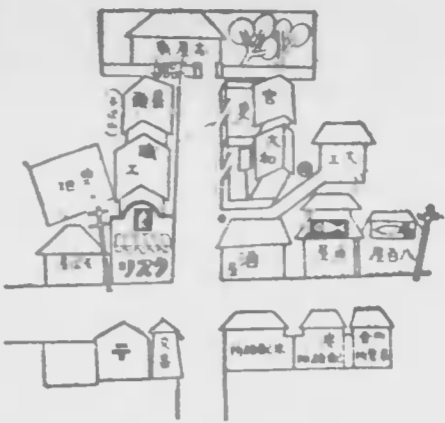
大和みさ子 (八歳)
みさ子さんは大和の娘。よく働く。よく働く。よく働く。

大和みさ子 (二歳)
みさ子さんは大和の娘。よく働く。よく働く。よく働く。



月正おのちう

るげし山村



「おめでたうだけの週刊板では意味がないと『今年もまた頑張らう』と週刊板に書き加へるおぢいさん

大和家の隣組

コト

二十八日が御用終ひで、忙しい

歳末の後に二三日静かな春を待つ日が続く。山崎さんの会社も休みになつた。山崎さんは或る保険会社の庶務課長である。会社の草創時代から努力してきたので、とつとくに重役に昇つてゐるが、社業の第一線を担ふが、人より早く出勤し、人より遅く帰つて、一日と雖も心を弛めぬ。努力型の人であるから、休日とてまたどのんびりはしてゐられない性質である。

今日も、朝から陽當りのいい庭へ出て、英園なく芝生へ土を敷いてゐる。古ズボンにジャケツ、鳥打帽を阿彌陀に冠つて、へつぱり腰で土を掘つてゐるところは、どう見てもお屋敷の爺さんに見えない。やつて見るとなにか、妙な仕事ぢやないか、若くなるよと、ハキル頭張り屋だから、煙草を吸ふのも忘れて細い土を振り撒いてゐる。

「やア、これは、御精がまずね」と、腰を掛けられた時には、正直のところ、すくには、まつすぐに腰が伸びない位、草履れてゐた。

「誰かと思つたら君か、まア入りな顔をした」

「お父さん、これならだま、若かつたら、わしがもらひたい」

「また、そんなことをいふ。気が無ければ引込めよ」

「一體、このお嬢さんだ」

「うちの隣りの大和さんといふ家の娘さんだ。これが家族だ」

「うア。こりやア大勢だな」

「お祖父様お祖母に御夫婦にお子さん全部で合計十一人の長女さくらさんだ」

「賑々しいね」

「うん、最初越してこられた時には、こいつ敵はんと思つたよ。正直のところね」

「賑々しいんでかい」

「いや、朝が早い、五時には家中起きて掃除だ。何しろ、主人が中学の體操の先生だ。氣をつけ——つて聲で、わしまで目が覚める」

「それだから、借家は困るだらう」

「この大和さんが越して来たために、うちの近所はめつきり勤勉になつた。口でいふよりもだまつて行ふ大和家の臣道實踐ぶりが、近所の目を覺したんだね」

「それで君も歩いてきたといふわけか」

「さうだよ。あの一家の目覚しいキ

「おぢいさん、これはなにか、立派なお嬢さんだ」

「山崎さんはさういつて上着のポケットから寫眞をだした」

「一寸これを見てくれ」

「何だ。また君のへボ寫眞か。あまり物言を無駄にするなよ」

「おぢいさん、これならだま、若かつたら、わしがもらひたい」

「また、そんなことをいふ。気が無ければ引込めよ」

「一體、このお嬢さんだ」

「うちの隣りの大和さんといふ家の娘さんだ。これが家族だ」

「うア。こりやア大勢だな」

「お祖父様お祖母に御夫婦にお子さん全部で合計十一人の長女さくらさんだ」

「賑々しいね」

「うん、最初越してこられた時には、こいつ敵はんと思つたよ。正直のところね」

「賑々しいんでかい」

「いや、朝が早い、五時には家中起きて掃除だ。何しろ、主人が中学の體操の先生だ。氣をつけ——つて聲で、わしまで目が覚める」

「それだから、借家は困るだらう」

「この大和さんが越して来たために、うちの近所はめつきり勤勉になつた。口でいふよりもだまつて行ふ大和家の臣道實踐ぶりが、近所の目を覺したんだね」

「それで君も歩いてきたといふわけか」

「さうだよ。あの一家の目覚しいキ

「おぢいさん、これはなにか、立派なお嬢さんだ」

「山崎さんはさういつて上着のポケットから寫眞をだした」

「一寸これを見てくれ」

「何だ。また君のへボ寫眞か。あまり物言を無駄にするなよ」

「一寸これを見てくれ」

「何だ。また君のへボ寫眞か。あまり物言を無駄にするなよ」

「一寸これを見てくれ」

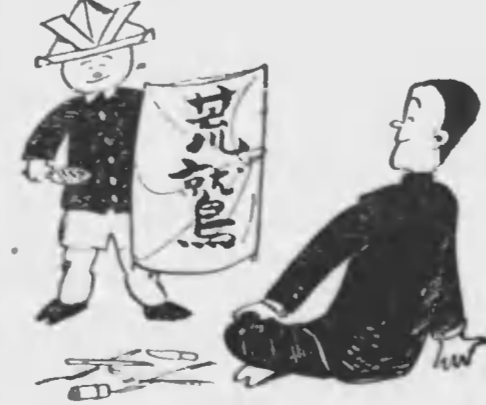
「何だ。また君のへボ寫眞か。あまり物言を無駄にするなよ」



二度と着ない洋服で作つた黒い防空演習用のモンペの紋付が、お正月のお役に立つた長女のさくらさん



お年玉は一人五十錢ときめ、それも郵便貯金預金済みの通帳で渡す。百二十億貯蓄に協力しようとするお父さんの名案



未来の少年航空兵を夢みる三郎君にはお兄さんが手製で風の贈り物運上



カルタ、スポーツを提唱する大和家の熱戦振り、窓などは一週に吹き飛ばしてしまふ



大和家の鏡餅はお母さんの東壁で代用品の役目を果たすことになつた



みささんの書き初めの文句は『虚勢禁止』上手に書いたので玄關へ貼り出すことになつた。これはお父さんの考へ

前線より銃後へ

佛印にきて



私たちが皆様の歡呼の聲に送られて、戦いの故郷を離れてから早くも一年が経過いたしました。一年が経過した九月二十六日、軍未踏の地佛印に進駐いたしました。御存知のやうに進駐後各部隊は直轄部隊にその任務に邁進して多大の戦果を収めてをります。

佛印は今から七十餘年前フランス人が占領されてから、交趾支那だけが植民地で、他の東京、安南、ラオス、カンボチャの四地方は保護國です。然しフランスの支配下に入つてから佛印民衆は幸福になつたのでせうか。私たちの見た所では決して良いとはいへません。勿論ハノイに行つても、ハイフォンでもフランス街は綺麗です。担々としてどこまでも長く自動車道路、ハノイの鐵橋等私た

ちの目を驚かすものがありますが、一度安南人の部落に足をふみ入れますとまた驚かされます。椰子の葉でふいた屋根、竹で編んだ壁、月、みな竹でできています。小さな家は家といふより大きな籠といつた感じがす。そしていつ作つたか解らない色のさめた、ぎだらけの着物をきて裸足で歩き廻つてゐます。

今は十一月二十日、細刈の最中です。米は佛印貿易の第一を占めてゐて年二、三回とれるらしい。苗代にはもう次の稲が青く芽をふいてゐます。奥地にゆけばバナナ、パイナップルを始め、野菜類も深山で、農業者は相當裕福な生活ができる筈です。それなのに安南人はどうしてこんな惨めな生活をしてゐるかと考へると實に安南人は憐れです。彼等は非常に日本人によく似た柔和な容貌をしてゐて、日本人には好意を

持つてゐます。それだけによい同情せざるをえません。戦地にきて特に感じたことは、お國の有難さです。そこで銃後の皆様にお願ひしたいことは、かういふ外地とくらべてお國の有難さをよく知つていただきたいのです。私は日本人が生れながら日本に暮してゐるためにお國の有難さが空気が水と同じに餘りに身近にあるためよく解らないのではないかと思ひます。さうでなければあの買物だの聞きだのといふやうなものはいいこととはな

持つてゐます。それだけによい同情せざるをえません。戦地にきて特に感じたことは、お國の有難さです。そこで銃後の皆様にお願ひしたいことは、かういふ外地とくらべてお國の有難さをよく知つていただきたいのです。私は日本人が生れながら日本に暮してゐるためにお國の有難さが空気が水と同じに餘りに身近にあるためよく解らないのではないかと思ひます。さうでなければあの買物だの聞きだのといふやうなものはいいこととはな

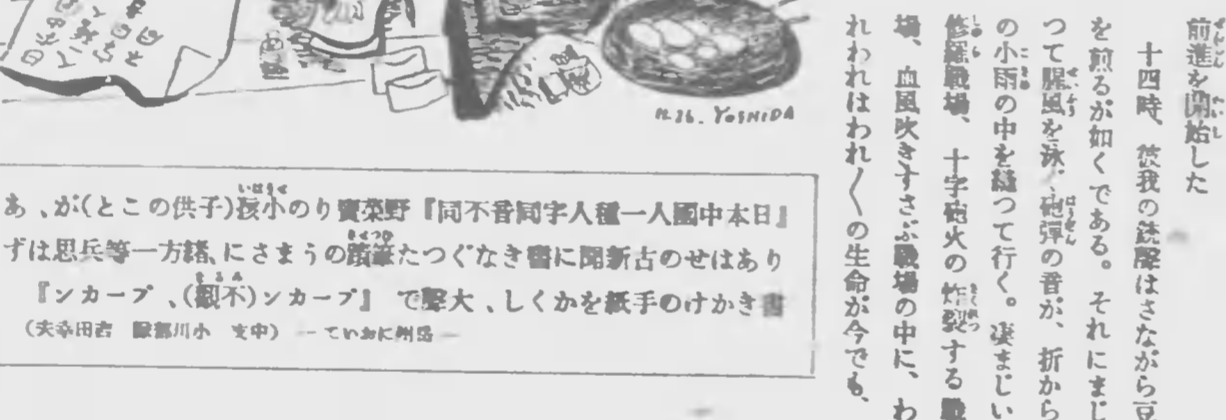


雀と
カルモチン

漢口附近の夏期の暑熱は「他が屋根から焼け落ちる」として火傷をしたといふ噂もあるからものだから、とにかく暑い。といふもの

づく。晴野に響く。昨日十五里、今日十里、駒を進めて一ヶ月。兵隊は日毎、夜毎の強行軍に、綿の如く疲れた足を引かずして歩いた。それは、日章旗を追つて祖國に殉ずる偉い大和魂の進軍だ。戦争は、死以上の勞苦と苦悶を必要とする。兵隊は死ぬ覚悟かねばならぬ。詰らぬいひがかりを作つて、これに反駁を加へる者はない。それは日本を知り、尊い使命の完遂を知るからである。

〇月九日 晴天
人馬の征くところ必ず塵埃ありだ。大陸の土は、誠に始末がわるい。雨の行軍には泥濘がつきものだが、晴天の行軍は塵埃が友だ。兵隊の顔は白粉代りに泥で影られてゆく。塵埃低くたれた北の空を眺めながら、塵埃のけのしたに兵隊の顔が今日もまた、麥畑の中を征く。二三日なりを静めた砲聲が右山峰の後方から聞えてくる。



赤な、名も知れぬ草が濃い緑の葉をはつて無数に散らばる。草原の中に

でわれ／＼兵隊は「今だ」とばかり機を看破して攻撃に轉換したのであるが、他の連中も流石に驚いたらしく、とたんに舞ひたんとしたけれども時既に遅く、塵の抜けた雀はそのまま、塵状となる者もあるし、中に稍、元氣のある雀もわれ／＼兵隊の包圍攻撃に遇つて約五〇メートルも追撃されては致し方なく殆んど墜落して、靴下の袋の中に收容されるにいたつたのである。五分程たつてから機から見た雀君たちは靴下の中で周章狼狽するのであるが哀れ捕獲の身置方なしである

あゝ山の向ふには、優秀な部隊があるときいた。きつとそこからの砲聲に違ひないが、我々兵隊には、その砲聲が極めて、手廻るいものやうに思はれた。われ／＼は、少し強い兵隊と通じたか。その城砦が堅固であればあるだけ、戦争形式に變化が多いからである。

〇中隊の小隊長が眞つ白い歯をだして、微笑した。

赤な、名も知れぬ草が濃い緑の葉をはつて無数に散らばる。草原の中に

でわれ／＼兵隊は「今だ」とばかり機を看破して攻撃に轉換したのであるが、他の連中も流石に驚いたらしく、とたんに舞ひたんとしたけれども時既に遅く、塵の抜けた雀はそのまま、塵状となる者もあるし、中に稍、元氣のある雀もわれ／＼兵隊の包圍攻撃に遇つて約五〇メートルも追撃されては致し方なく殆んど墜落して、靴下の袋の中に收容されるにいたつたのである。五分程たつてから機から見た雀君たちは靴下の中で周章狼狽するのであるが哀れ捕獲の身置方なしである

でわれ／＼兵隊は「今だ」とばかり機を看破して攻撃に轉換したのであるが、他の連中も流石に驚いたらしく、とたんに舞ひたんとしたけれども時既に遅く、塵の抜けた雀はそのまま、塵状となる者もあるし、中に稍、元氣のある雀もわれ／＼兵隊の包圍攻撃に遇つて約五〇メートルも追撃されては致し方なく殆んど墜落して、靴下の袋の中に收容されるにいたつたのである。五分程たつてから機から見た雀君たちは靴下の中で周章狼狽するのであるが哀れ捕獲の身置方なしである

陣中文藝

火線

敵の水冷式重機銃の連發に
十尺前の野菊の花が倒れた

ビーンと張り切る電線の響を
身體一杯に感ずる
號令を待ちあぐむ兵隊達は
もうさつきから
蒼白い意氣の光の一層となつて
敵の銃座にころがり込んでゐる

戦線の春

匪賊殘敵山まよ山を
越えて攻めゆく幾百里
あゝ砲煙の戰線も
揺れてうれしき注連かざり
染めてみどりの門の松
雑草の香をとるときは
眼のなかにほの／＼と
初日を仰ぐ田園の
父母の顔の見ゆるなり
あゝ戰線に春は來ぬ

汗と硝煙に光る顔に
まばたきの間隙も見いだせない
らん／＼たる二つの瞳が
敵の銃座に喰ひ下つて離さない
突進む兵隊達の意志のかたまりが
眞赤な硝となつて撃ちだされてゆく

支那の子供

支那の子供は可愛い、ね
青い服を着て、赤帽子
帽子の小さな靴はいて
洋車の上で笑つてる

支那の子供は可愛い、ね
まばたきの間隙も見いだせない
らん／＼たる二つの瞳が
敵の銃座に喰ひ下つて離さない
突進む兵隊達の意志のかたまりが
眞赤な硝となつて撃ちだされてゆく

支那の子供は可愛い、ね
まばたきの間隙も見いだせない
らん／＼たる二つの瞳が
敵の銃座に喰ひ下つて離さない
突進む兵隊達の意志のかたまりが
眞赤な硝となつて撃ちだされてゆく

支那の子供は可愛い、ね
まばたきの間隙も見いだせない
らん／＼たる二つの瞳が
敵の銃座に喰ひ下つて離さない
突進む兵隊達の意志のかたまりが
眞赤な硝となつて撃ちだされてゆく

朔城にのぼりて

百年前
この街には 何とか美が存在した
だらうに
望樓の朱塗も見え難く
城壁が彼らにとつてあまり分り過
ぎたのだ

附記

前線では、今も戦ひはついで
あります。本誌に掲載したのは、
現地の將兵諸君が軍務の餘暇に
綴られた感想であり、戦線日誌で
あり、まづ文藝作品です。讀者は
こゝに前線の勞苦を偲び、兵隊さ
んがその心を十二分にくみとつ
て、銃後日常生活の中に活かして
いたゞきたいと思ひます。今後連
載の予定ですが、原稿を寄せられ
た各位と聯名の寄をとり、現地
軍需部に厚く御禮申上げます
なほ前線の各位は今後とも
どし／＼元氣な前線だよりを御投
稿下さい

問答

元始祭について御説明下さい

〔答〕 一月三日の元始祭とは、年
の始めに當つて、皇祖天照大神が
三種の神器を皇孫瓊杵尊に御授
け遊ばされ、天壤無窮の御神勅を
賜はつた尊い皇位の大本を御祝ひ
申上げて、國運のます／＼盛んにな
るやう御祈りする御祭であります。
この日宮中では、畏くも 天皇陛下
御親ら寶所、皇座、神座で人
祭を執り行はせられ、また神宮始め
全國津々浦々の神社でも祭典が行は
れます

常會はどんなふうに開いたがよいでせうか

〔答〕 常會を開くには必ず適
當な司會者(指導者)を定めて開き、
初めは行事をなし、次に報告をして
後協議談話をなし、最後に申合せま
たは決議して實踐に移すこととなる
のです
行事は普通通拜または拜禮、國歌
斉唱、勅語奉讀、祈念等でありま
すが、地方の事情によつては別に考

期日は月一定の日とし、時刻は多 敷出易い夜とし、日没後二時間半の 頃、時間は二時間位を限度としま す。開會と閉會の時刻は絶対に嚴 守して下さい

場所は村落のやうに神社、寺院、
集會所等の適當な會場があれば、
これを用ひますが、さういふ會場の
ない所、特に都市では輪番を原則と
いたします。役員宅等に限定するこ
とは集められるといふ氣分となり、
當番にはまた迷惑をかけますので、
かりした會場は避けませう

また當會を司會する人は、自分が 主役になつたり、指導する心持は絶 對禁物です。手傳ひをする、救の下 の力持ちの心、いはゆる「波私奉公」 の精神です

常會は教へる會でなく語り合ふ集
り、議決する會でなく實行に移す集
り、批判の會でなくいゝことを勤め
る集りです。さうして互ひに親しみ
合ひ、研ぎ合ひ、無理をいはず、お
互ひが理解に努めるやうにいたしま
す。發言も一人や二人で獨占しない
やうに公平に語り合ひ、何もかも一
人でやらす、みんなで分擔してやる
やう、一人一役主義で開いてゆきま
せう



日	月	火	水	木	金	土
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

- 一日 四方拜
- 三日 元始祭
- 五日 新年宴會
- 八日 陸軍始 東京代々木練兵場にて觀兵式舉行の豫定
- 十五日 海軍始

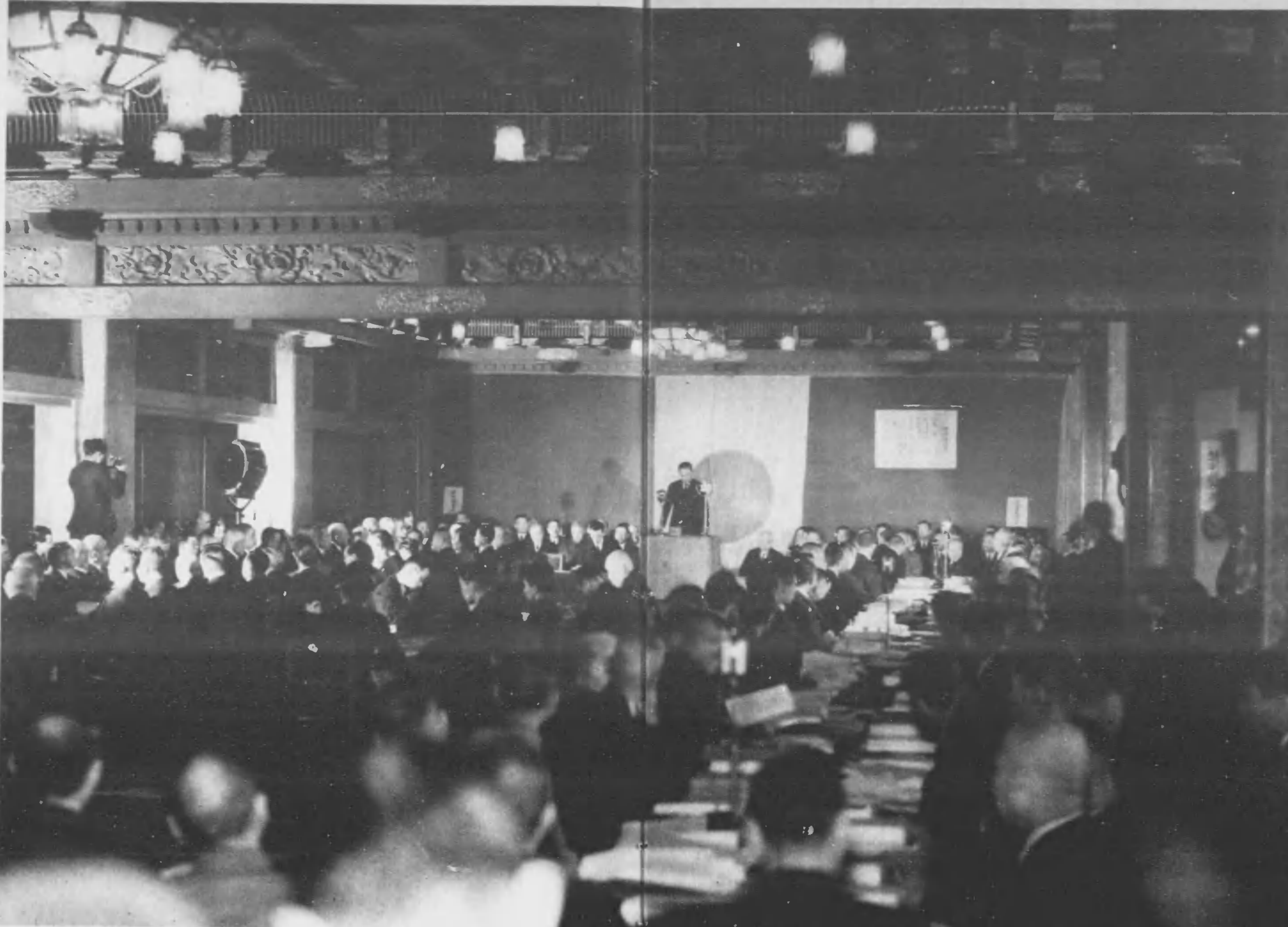
いつ何處で拜しても太陽に違ひはないが、櫻子繁るわが南方の第一線、海軍島を守る鉄剣にまばゆい二千六百年の初日出を拜すが勇士の感懷はどんなであらう

第一回臨時中央協力會議



末次中央協力會議議長

つひこの間まで豪華を極めた東京會館の大廣間が、一轉大政翼賛の實を擧げんとする眞剣な叫びを聞く會議の議場となつた
 ◁ 眞は協力會議第一日有馬翼賛會事務局長の挨拶



近衛大政翼賛會總裁の挨拶



上意を下に達し、下情を上に通ずる道を拓き、翼賛體制の眞髓を發揮すべき第一回臨時中央協力會議は全國民の眞剣な注目をあびつ、十二月十六日大政翼賛會本部大會議室にその幕を開いた
 ◁ 本部側から近衛總裁、有馬事務局長、末次協

國內産業新體制の重點に關し、泉道計畫經濟體制の確立と中小産業保護を説く實業界代表鐘紡社長津田信吾氏
 ◁



國民體向上の重要性を取りあげ、體育國策への協力を強調するスポーツ界代表大日本體育協會副會長長郷隆氏
 ◁



農村問題解決の要諦と農民の臣道實踐には農民の仕事を妨げぬやうにと述べる農村代表日本國民學校校長加藤完治氏
 ◁



婦人翼賛の實を擧げるため、婦人團體の統合と、婦人指導の必要及び翼賛會に婦人局設置を要望する唯一の女性代表日本女子大學教授高良富子氏
 ◁



大政翼賛運動の指導精神と常會の活用について所見を述べる北海道代表黒澤西蔵氏
 ◁



中小商工業者の前途不安を一掃するため企業改革の行き過ぎを是正されたと述べる名古屋代表三輪常次郎氏
 ◁



力會議議長を初め、各關僚、金崎、井田常任總務以下各總務、各關係官及び事務局役員全部、會議員側は各界代表四十八名、六大都市代表十二名、道府縣代表九十四名、合計百五十四名が出席、數々の議題について活氣横溢する眞剣な討論が十八日まで三日間にわたつて展開された



羽黒替の汗

愛知縣神戶村
舉村一致の

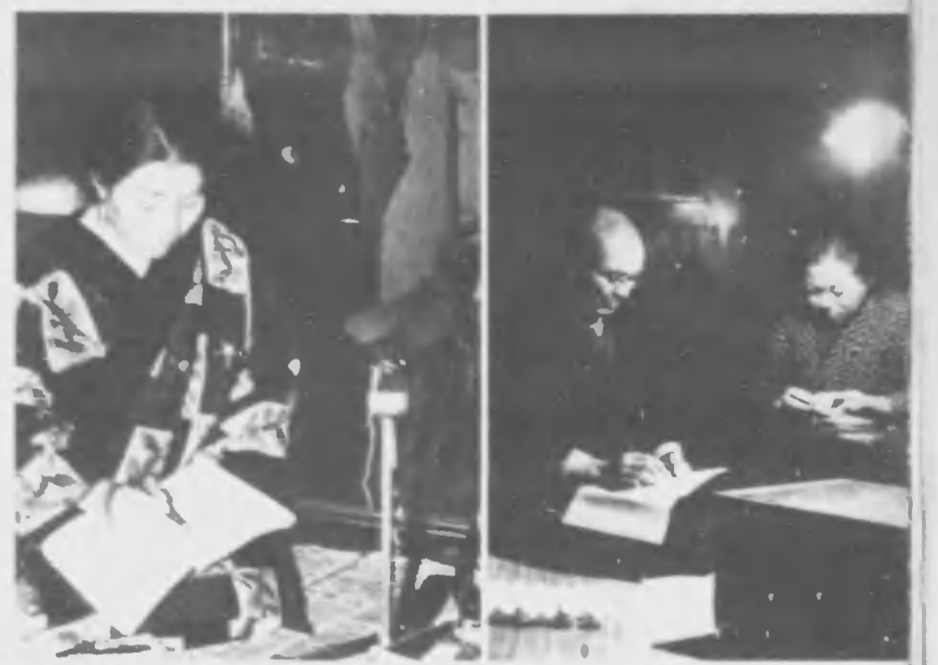
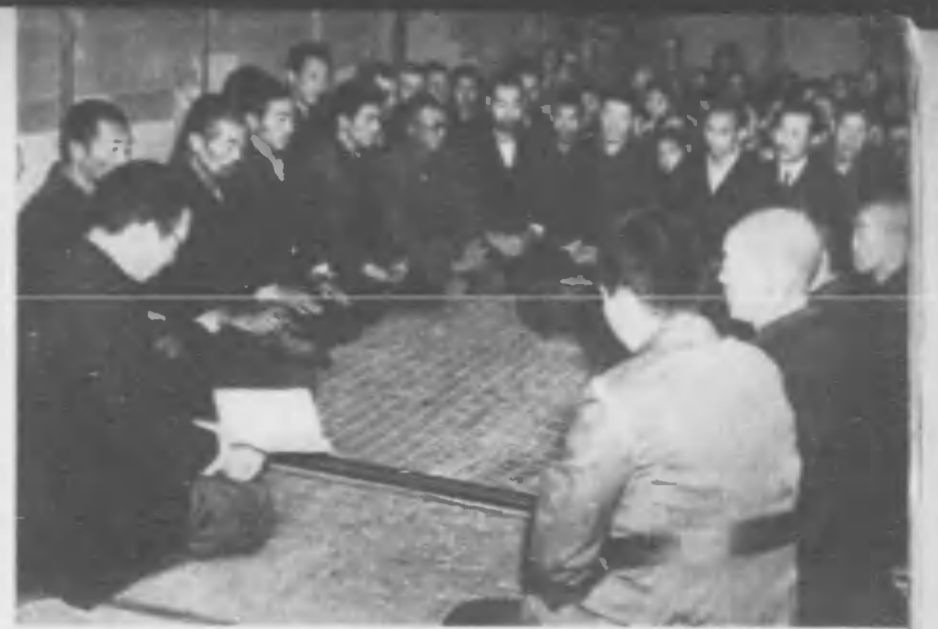
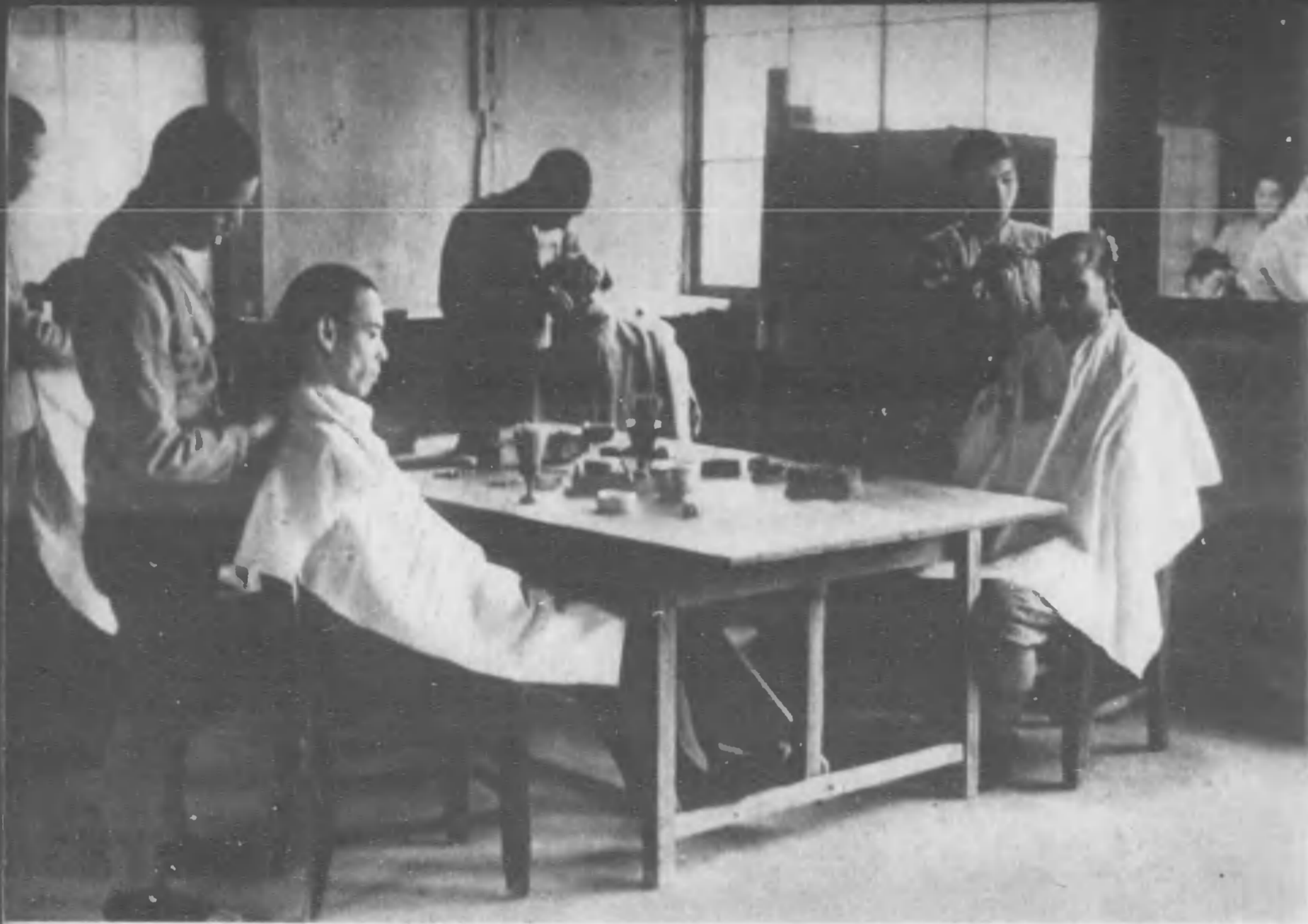


↑ 飛沫を浴びて牛が地電網を引く。村では極度に畜力を利用して努力不足を克服してゆく。

⇨ 共同耕作部隊——農村の景物も變つてゆく。一つの目的のもとに統制され、熱意と働く。集団労働の力強い美しさ、こゝにも驚かす村の姿がある。

全村一體となつて高度国防國家の建設と、匠道實踐に邁進する村。これこそ新體制下日本の新しい村でなければならぬ。

こゝにさうした先驅する村の一つがある。愛知縣渥美郡神戶村がそれだ。黒潮荒ぶ遠洲灘に突出した渥美半島の中部、豊橋市から南へ約五里、戸數六百四十五戸、人口三千九百餘といふ小ぢんまりした村であるが昭和十二年聖旨奉體教化指定村となるや、先づ第一に着手したのは全村を一體として組織することだつた。これには村の公共團體の責任者をもつて中樞部を組織し村常會をもつた。更に最下部組織たる隣組をもつて部落中心の常會を開いた。この二つの常會を通じて一切の計畫と指導がなされ、村民も又これに應へ烈々の調志に燃えて立ち上り計畫は着々と實踐されていつた村は一つの大きな方向に動きはじめたのだ。村全體のために、更により大きな國家全體の爲めに、滅私奉公する生活、村政も經濟も生産も一切をあげて——これは村民の倫理として着々と生活の上に反映されていつた共同農耕、砂糖、木炭、肥料その他の自給自足、記帳豫算等の計畫生活、



↑ 常會の空気が和やかだが、眞剣だ。完全な上意下達下情上通、全村一體となつて進む一切の行動はこゝでしっかりと握まねばならない(上右)

↑ 計画のない行動から実績は得られないのだ。そこで全戸一戸残らず一家の主要担当者によつて生産から家計等一切の計画がわが家の計画書に詳細に記入される

↑ 計画はすぐ実行にうつされる。その実績を記録するのは主婦の仕事だ。この主婦なら玉子も肥料もどうやら計画通りにゆきさうだぞ。一日の労作を終へて電燈の下に家計簿を開いた主婦の顔は明るい。組織的な生活を営む者のみの知るよるこびだ

↑ 出征軍人遺族の援護にも手落ちはない。名譽の家を衣徴する日章旗の下で、山と積まれた稲のたばは青年團員の手によつてまろく間に処理されてゆく(上左)

↑ まつ白な別添着を着た主婦達の共同うどん作り、部落ごとに備へつてある小型製麵機を使つて代用食も自給自足で

↑ 部落ごとに揃あつられた甘蕪擦機がぐるぐる廻るお砂糖は自給自足だ、畜力を利用して砂糖製造の共同作業

↑ 木炭も自給自足だ。共同炭焼爐から立ちのぼる炭煙に樹の間をぬける陽光の縞目のうつくしさ。村はこの冬も暖かである

↑ 全村丸刈頭で翼賛しよう、そこで設けられたのが青年簡易理髮所だ、バリカン使ふ青年達の手際も鮮かに村の男達の頭が丸まらちサツパリと仕上げられてゆく

↑ 一村総出の慰安の日、老人達の獅子舞から、時吟、舞踊、浪花節、自作自演の農民演劇等學校中心に指導されるこの村の娯楽はどこまでも健全で明朗、拍手と哄笑の裡に勞苦を忘れ又明日への力を蓄積してゆくのだ



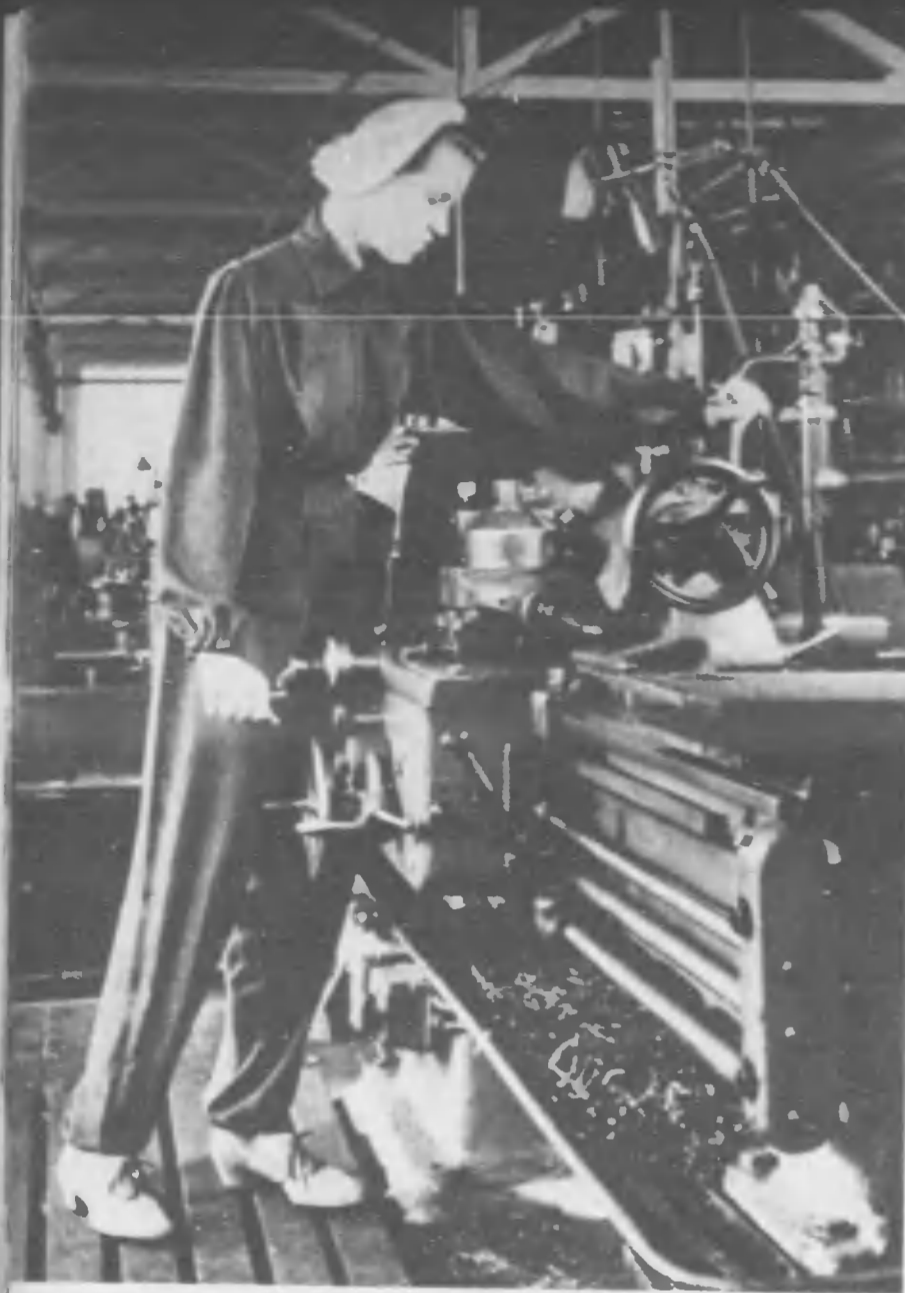
時間動行各種宴會の自肅、結婚改善、代用食の自給、廢物利用、娯樂の改善等々絶えず村全體のために老人も子供も足並揃へて活氣ある生活を實踐してきたのだつた

↑ かうして組織され訓練されてきた村民は、今軍變の進むにつれ戦時下農村としての體制を整へるとともに活潑な活動を開始した。壯年部、青年部、婦人部の三班をもつて勤勞奉仕部を新設して、従来の各組織とともに應召兵家族の生産計畫樹立をはじめ各種勞作、軍需供出、肥料その他物資の配給等に目醒しい活動を開始し、畜力の利用、共同農具設置の強化等によつて戦時下勞力の不足を克服し、一意、職域奉公の念に燃え盡す戦時下協力して来たのだつた。昨秋、大政翼賛臣道實踐の新體制運動は發足した。これに呼應して神戸村はこの新體制下の農村として再出發した

↑ 今や神戸村はその組織と機能のすべてを發揮して、臣道實踐と高度國防國家の建設といふ最高目的に向つて新しい出發をしたのだ。この翼賛神戸村こそは新日本農村の先驅として一つの道を示すものであらう

翼賛の熱き汗

撮影 木 實



と率能と美

服人婦ツイドく働

信通外海



生活の新機軸にわが國でも女性の仕事と服飾との有機的な結合が眞に考へ出されてきてゐるが、これはドイツの労働職

ばかりではなく、空想にはミモザの花を植ゑ、労働服にも色どりをつけた方がどれほど楽しく仕事が出来、且能率が上がるか知れないといふのが彼女たちの考へ方だ。K・D・F（歌善力行團）團長ロベルト・ライ博士の提唱する『工場美化運動』の實踐は、とりもなほさすこゝに見られる。ドイツ南部の工場都市フランクフルト・アム・マインには流行局といふナチスの役所があり、そこにはこゝに紹介したやうな健全で而も女らしさを失はない流行をどしどし創り出すため造形文化の専門家が多數動員されてゐる

寫眞協會





初日を拜んで、一家揃って聖壽の萬歳。一家ですぞ。



かち一冊に集まらんとて正片でもおれは一寸も
れないが、集つてみると自分ながら壯観なのに驚く



赤ちゃんが重くなつてわたしの手に負へなくなると、す
ぐ軽いのが生れまして、自分の年を忘れてゐますわい

これも十五人の子實をもつ静岡縣庵原郡
由比町松永浦次郎さんの話

私が二十五、家内が十五の時に結婚し
て翌年長男が生れてから去年までに八男
七女をまうけました。何しろ学校のやう
なさはぎでして呼びたい子の名を呼ばに
もすぐには出て来ず、あるだけ呼んで最
後がその子だつたなどいふこともあり
ます。こゝにゐないのは三男が支那事變
で戦死しましたほか長女と二男がよそに
働きに出てゐます。全部母乳で育ちまし
て、今日でも皆丈夫です

家内も忙しいものですから離乳後の子
供の世話は一切おばあさん(六十九歳)
が元氣にしてくれました。子供をそだて
るのにとくに注意もしていませんでしたが、
日ごろ信仰してゐる神様のお護りがあつ
たのでせう。仕事はみかんの栽培と、漁
業をしてゐます



十五人の子實をまうけた宮城縣栗原郡岩
ヶ崎町阿部徳次郎さんの話

私が二十三、女房が二十の時に結婚し
ました。昨年生れた紀男でちやうど十男
五女になりました。仕事は靴の製造をし
てゐます。どうしたものか女房の乳が出
なくて長男から十四人目の子までは全部
人工養育でしたが、去年生れた子になつ
てはじめて母乳が出るやうになりました
た。人工養育の秘訣ですか? 別にど
うつてことはないのですが、隣が牛乳屋
さんなので二ヶ月位までは牛乳を薄めて
飲ませ、以後は御飯ののりをときませて

飲ませました。それよりも赤んぼの泣き
方に注意することで、空腹のとき、満腹
のとき、気分が悪いとき、それ／＼泣き
方がちがふので、そこを早く読みとる
ことがまあこつてせうな。大きい方の子
の世話は一さい今年六十八になるおばあ
さんがやつてゐます。學校に通ふ子供達
の辨當を作るのに四時半から起きるん
で、まあ御覽のやうに皆元氣であります

こつてす。みんななになりますかな、た
のしみといへばそんなことせうな

子宝の春

『生めよ殖やせよ』の國策に沿つて子實部
隊の初春を片や北國の山國、宮城縣下の山
村に、片や暖國の海濱、静岡縣下の漁村に
子實歌を求めて

阿部家の子實

母 阿部徳一 長男 守郎 次男 喜郎 三男 利郎 四男 正郎 五男 勝郎 六男 英郎 七男 久八 八男 悦明 九男 悦明 十男 悦明 十一男 悦明 十二男 悦明 十三男 悦明 十四男 悦明 十五男 悦明

紀松悦明 繁久英勝宮正小關利守ハル
男子子介 子人郎子子郎郎氣也雄子郎
2 5 6 7 8 10 11 12 13 15 16 18 19 21 22 42 45才

松永家の子實

母 松永浦次 長女 高野 次女 高野 三女 高野 四女 高野 五女 高野 六女 高野 七女 高野 八女 高野 九女 高野 十女 高野 十一女 高野 十二女 高野 十三女 高野 十四女 高野 十五女

好た京行輝千睦太保ふ竹靜 忍く 野雄二郎
子子女彦夫子雄子郎子守夫 野雄二郎
4 5 8 9 11 13 15 16 17 20 22 25 27 29 44 54才



この間の日曜には小学校の子供たちと縄跳びをやった。真心にかへれば「娘の垣根など」とびさ

最近我々は奥地のある部落を討伐したが、その時我々が乗つて行つたトラックを見た部落民は、生れてはじめて見る『トラック』といふものが機械であるかそれともまた動物であるかで大議論した。これを動物であると主張する側では、目が二つあつてキラ／＼光る、四つ足である、聲を出す、時々水を飲む、觸つて見ると体温がある。自分の力で走る。等々と擧げるが、機械であるとする方は残念ながら身體に毛がないと云ふ一つだけしか主張する材料がなかつた。そのためトラックはとうとう動物であると判定されてしまつたのだ。

こんな文化の程度の低い海南島のことだから、我々の生活もまた原始的な生活だらうなどと考へてゐるだらうが、どうして却々いま住んでゐるところは文化的



これはさきごろ討伐に行つたときの小休止風景



内地では栗鼠など捕へることは容易なことぢやないがこゝではこれの通りわれらの可愛いマスコット

に建設されてゐる。海南島でも南の方は北に比べて従来文化に恵まれなかつたが、我々が来てからは、それはそれは島民の驚く様なものばかり出来た。電気なんか早くに出来てランプだのロソクだのは必要はない。

いまごろ内地は火鉢を引きつける時期だらうが、こゝは丁度内地の七月、八月頃の氣候だ。こんなに暑くては正月の氣分も出ない。海南島は猛獸毒蛇の巢だと云はれてゐるが、まだ我々はそのなわい猛なものにブツからない。討伐の時なんか、リスだの九官鳥だのが人懐っこく飛びついて来る。

南の海は魚が豊富だ。それに附近にはいゝ鹽が出るので、此の邊が漁村として發達するのに適してゐる。



われ／＼は一羽の九官鳥を籠に入れたが、この海南島では九官鳥でもインコでもちつとも人間をこわがらずに馴れ馴れしく肩や手に止つて愛嬌をよひまく



海南島の近海は魚が實に豊富だといはれるが、實際我々素人の釣針にさへ面白いはどかゝつてくる



内地の君たちに一本食はしてやりたい大楠のバナナがほら、こんなたわいに熟れてゐる



椰子の木陰のこの兵舎にも燈々と呼く電燈はわが陸軍隊御自慢の一つ

戦地の兵隊さん



海南島にて
海軍〇〇部隊

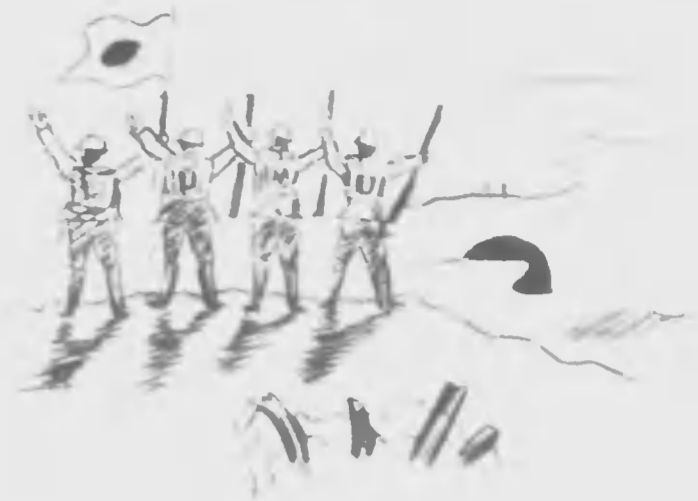
山中市太郎
こゝ海南島のやうな故國を
はるかに離れた戦線にある
われわれにとつて内地から
届く手紙や新聞雑誌ほど
嬉しいものはない。今日は
妹から写真週報がついた。
「おい、見せろ！」職友が
駆け寄つて来る。インクの
においと内地の書店の店先
きを想ひ出した。



陣中休かつき
大寺部隊後藤部隊
警備の休暇に運動會をやつてみた。内地でも體力測定に休かつきがあると
か、見ると何でもなささうだがやってみるとお
いそれとは肩に乗つたら
ない、自分等には銃の方
がたしかに肩にあつてゐる
のだから。

もちつき
北支町田部隊
日頃は陣中の繁忙に取
られ、懐しい故郷の山河を
懐に描く暇もないが、流
石に年の暮ともなりドン
ドンと威勢の良い杵音を
響かせてゐると、さすが
に故郷の匂ひがツーンと
痺れるやうに頭の蓋に渡
つてくる。

東天へ
一番体の
聲高し



水筒の
支那酒露の
のどが鳴り



ロソクへ
想ひくの
筆をとり



丸燵の
美味さや敵の
置土産



駐屯地
賑やかな手へ
につこりと



つぼりと
かぶつたつもりで
食はれて居



満月へ
大きく伸びた
浦りの輪



中支派遣軍甘粕部隊 南波松男

隣の組の 迎春常會

谷田世・京東



「まづ第一にこの際無駄ははぶきませう」
開口一番隣組長「勿論ですとも」と異口同
音、これで新しい年を迎へる心構へが立
派にできた

去年までは子供にせがまれて變な見栄えか
ら脱つて大物を飾つたものだが……

「お正月の牛蒡が隣組なんて、本當に
新體制ですわ」奥さんたちは氣持をあげる

さあ、人も揃つた。道具も揃つた。それ出
来るぞ新しい年の翼實餅



お正月だ。新しい年を迎へ、新しい
年の出發は向ふ三軒隣の隣組でゆかう
— 事— 二千六百年の師走も押し迫り、輝かし
いお正月がくる。『今年のお餅は糯米切符
による配給となつた』『門松は小枝主裁だ』
『お餅もなるべくお正月で揃かうじやない
か』……上意はこんなふうな下達された
よしきた、お正月は隣組で迎へよう。さ
あ餅つきのは？ 臼は？ 蒸籠は？ 焚
木は？ 等々、東京市世田谷區奥町第四
部二組の隣組は早速迎春準備の常會を開
いた。そして餅つきも、門松も、注連飾り
も、共同菜園のお正月用野菜の採取も済ん
で後はお正月を待つばかり
— 元旦— 元旦の朝、隣組十四軒の全員百名
は打揃つて鎮守の奥澤神社にお詣りし臣道
實踐の誓ひをする。だが三ヶ日は朗らかに
祝つて、老幼入り亂れた羽撲つき、カルタ
取り、慰問後の發給などと、年齢や身分、
男女の別など一切ぬきの和やかな隣組に二
千六百年を迎へた



豪華な羽子板よりも、大和一家の漫畫を畫
いて、手製のものの方がはるかに味がある
さ……校長先生の新聞刺繍御座り

小さな寫眞師の眞剣な身構へを見て下さい
出征されたお隣りのお兄さんにお送りする
記念撮影です

あらか母さんが視察を持ち出して来たわ
さあ、負けるな、負ければ黒丸のご褒美だ



撮影者 松不二夫



元氣に朗らかに



明治チョコレート

愉しい味と豊かな栄養の調和

明治製菓株式会社

贈答品 杉狂夫



新体制の音



一年の計は、元旦にあり 小泉 兼昭
「もう、歳暮の生活は止まりました。兵隊さんの訪家用にでもして頂く為、キツネを寄進します」ボン！ボン！

新春早々の
回覧板
南 義郎

石川 達介
「正月早々、フラッシュで、ごつたネ」
「いや、大抵、小父さん」
「三時開きかいつて、境内も拝いたんだよ」



復習室

本報からあなたは何を學んだ
てせうか？

- 1 協力会議はどんな目的で開かれるのでせう？ (20頁)
- 2 一月三日は〇〇祭ですが、これは？ (27頁)
- 3 常會を司會する人は指導者として會に臨むべきですか？ (26頁)
- 4 こんど大陸に開通した徳石線は〇〇線と△△線を連絡する重要支線です (16頁)
- 5 愛知県神戶村の海岸に行つた所幾頭もの牛が沫をあびて力んでおました。何をしておたのでせう？ (31頁)
- 6 二つ目があつてギラン／＼光る四つ足である、聲を出す時時水を存じ、體温がある、自分で走る、だからこれは動物である一と海南島の土人が結論を下しました。さてこれは何でせう？ (30頁)
- 7 戦車が世界ではじめて戦場を蹂躪したのは何時の戦争でせうか？ (19頁)
- 8 ツーテルローの戦い、南北戦争、百年戦争、第一次大戦、第二次大戦、(4頁)
- 9 製鐵一家の大和贊平さんの職業は？ (21頁)
- 10 桃栗三年、柿八年といふが、ゴムの木は何年位たつと液が採れるやうになりますか？ (14頁)
- 11 今春御歌始の勅題は？ (1頁)

★夜

元日の朝、支那の家庭ではまづ家族打ち揃つて廟前に詣で、祖先の靈を拜した。客堂に集つて日本の床の間にあたる所に美しくお供へ飾り付をした前に代る供を置いて今年も良い年でありませうとと神様に祈りを捧げる。部屋は去年の暮から惡魔の入りぬきう赤紙で封じられ、今日一日は家族の誰も一歩も戸外に出ないで室の中で賑やかに正月を楽しむ

撮影 不動 健治

寫眞週報(養賢堂)

昭和十六年一月一日印刷發行
編輯者 情報局
印刷所 東京市神田区一ツ橋三ノ番三ノ二
發行所 内閣印刷局
東京市神田区大塚町

所 込 申	價 定
一部 本報に限り 二十錢	
▲郵約配送御希望の方は一 部十錢(外國郵便に依る 地域は十九錢)の割合を 以て前金を添へ御申込み 下さい	
▲特大號の場合は其の郵費 を別送金より差額を申受 けます	
内閣印刷局發行課 電話九ノ内三五一九 郵券東京一〇〇〇〇	
全国各地官報販賣所 東都書籍株式会社 各書店・譯賣店 各新聞販賣店 寫眞材料店	

つく健康本日



今年も 貴方の健康を確保するにわかもとをお続け下さい。優秀な同化性V・Bと強力な消化酵素を豊富に含む本剤は、栄養を充實し、消耗エネルギーを補給して、常に明日への健康力を培います。

廿五日量 一圓六十錢

同化性V・B
三消化酵素
複合効果

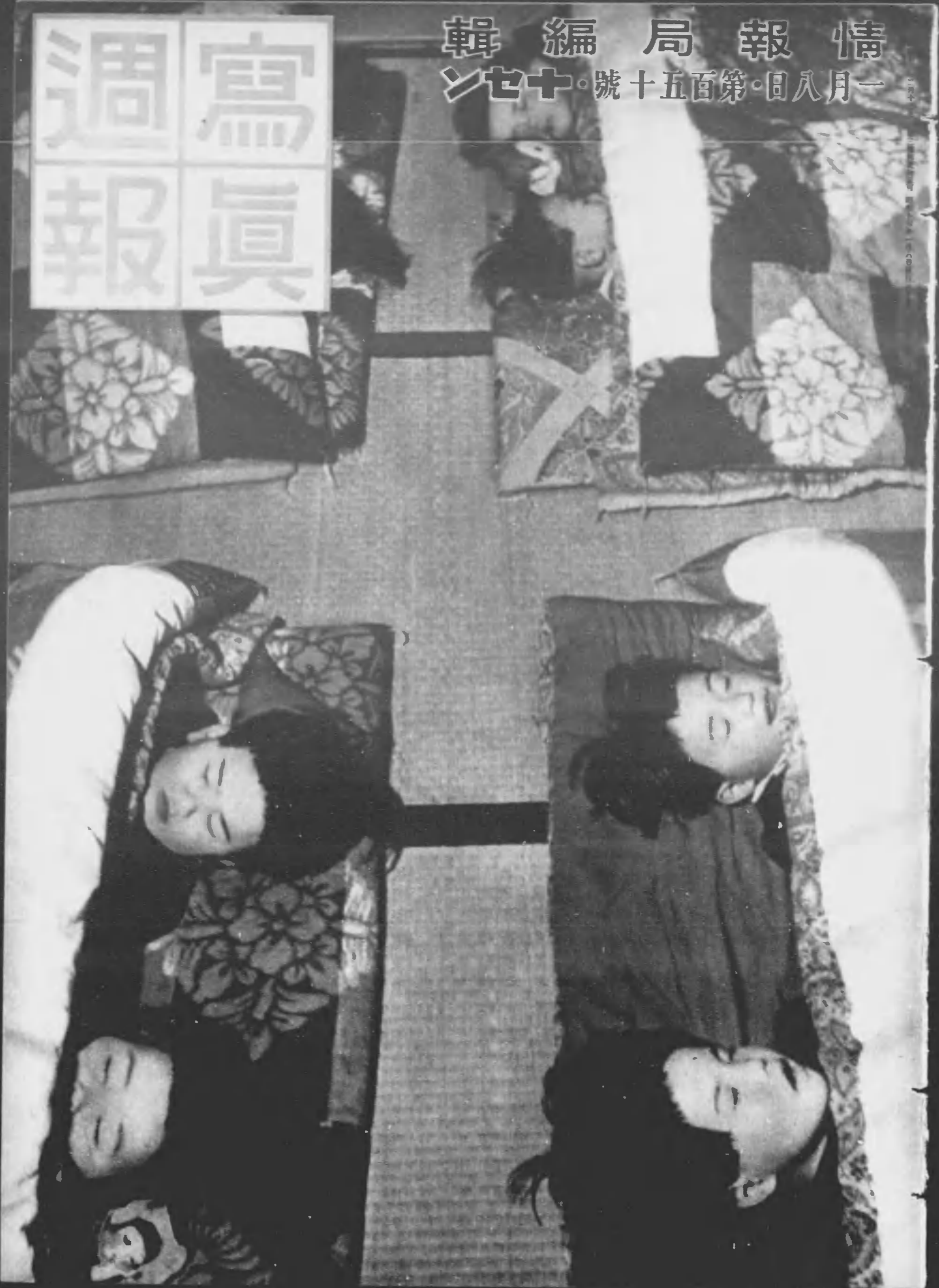
東京芝公園
かわもとも本舗



錠剤 かわもとも

内閣印刷局印刷發行

※本券はA4製紙に印刷されています。



新報書房

編輯局報情
第一八〇五號・八月一日





皇太子殿下には
御九歳の新春を
御迎へあそばさる

皇太子(みまぎ)明仁(あきら)親王(みこと)殿下(みま)には、めでたく御九歳の新春を御迎へ遊ばされました。

殿下には昨年暮から葉山御用邸に御滞在、専ら御神身を御鍛錬遊ばされ、いよ／＼御健やかに渡らせられます。こゝに御日常の一端を拜しますと、毎朝六時半には御起床、御日拜所で天皇、皇后兩陛下の御寫眞を御拜禮あらせられます。午前中には一時間餘り缺かさず御勉學遊ばされますが、午後は御邸内で小型自動車に御乗りになつたり、天氣のよい日などは海邊にも御出ましになつて、寒さも御いとひなく色々な御運動を遊ばされ、御晩餐後は繪本など御覽あらせられまして八時半ころ御やすみになります。

かやうに、殿下には御休暇中を大へん御元氣に御過しになりましたが、一月八日からはまた學習院初等科へ御通學遊ばされる御豫定であります。

